

小山市経済動向実態調査

(令和2年度最終報告書)

令和3年3月

小山市産業観光部商業観光課委託

白鷗大学ビジネス開発研究所

小山市経済動向実態調査

(令和2年度最終報告書)

目次

要旨	1
1. 調査の目的	3
2. 調査対象・調査内容	3
2.1. 調査対象	3
2.2. 調査内容	6
3. 調査結果	7
3.1. 全般的な小山市の景気	7
3.2. 小山市における業界の景気	13
3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問	27
4. 小山市経済動向ヒアリング	30
5. まとめ	36
(参考資料)	38
i. 小山市景気動向アンケート調査票(令和2年度第1回)	38
ii. 小山市景気動向アンケート調査(令和2年度第1回)の回答一覧	42
iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)	61

小山市経済動向実態調査プロジェクトメンバー

白鷗大学経営学部准教授・ビジネス開発研究所運営委員	西谷 勢至子
白鷗大学経営学部講師・ビジネス開発研究所運営委員	八尾 政行
白鷗大学総合研究所担当職員	櫻庭 律子
(協力)白鷗大学経営学部教授・ビジネス開発研究所所長	小笠原 伸

小山市経済動向実態調査

(令和 2 年第 2 回小山市景気動向調査)

令和 3 年 3 月

白鷗大学ビジネス開発研究所

白鷗大学ビジネス開発研究所では、小山市産業観光部商業観光課からの委託を受けて小山市の消費面を中心とした経済動向を把握するため、平成 14 年度以降、小山市経済動向実態調査を実施している。令和 2 年度小山市経済動向実態調査では、小山市景気動向アンケート調査(6 月と 12 月)とヒアリング調査(2 月)を実施した。本報告書は令和 2 年度小山市景気動向アンケート調査(第 2 回)の調査結果およびヒアリング調査をまとめた令和 2 年度小山市経済動向実態調査の最終報告書である。

要旨

令和 2 年 11 月から 12 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(令和 2 年度第 2 回)」の結果をみると、令和 2 年下半期(7~12 月期)の小山市の全般的な景況感は、前回調査時(令和 2 年上半期(1~6 月期))に比べると改善傾向はあるものの、依然として厳しいものであった。景気動向指数(DI)の観点からは、本調査が開始された平成 14 年度以来、最低の水準を記録した前回調査時から、「悪くなる」の割合が大きく下落し、「やや良い」、「どちらともいえない」、「やや悪い」の割合が上昇した。令和 2 年の初頭から続く新型コロナウイルス感染症の流行により、人々の行動が制限されている状況が続いているが、前回調査時と比べ、今回の調査時には感染症の流行状況や、医療体制にある程度の落ち着きがみられたことが景況感に反映されたものと考えられる。また、小山市の景気見通しに関して、前回と比べ「悪くなる」の割合が下落した一方で、「良くなる」、「やや良くなる」の割合も下落したため、全体として景気見通しは前回以上に厳しいものとなった。その理由として、いまだ感染症流行の収束が見通せないことによる経済の先行きの不透明感が、景気見通しを厳しいものとしている。他方で、コロナウイルスのワクチン接種への期待から、景気が好転するという見通しもあった。

業界の小山市での売上金額についての回答についてみると、「やや増加した」、「増加した」の割合が上昇し、「やや減少した」、「減少した」の割合が下落し、DI は前回から大きく改善した。しかし、前年同期(令和元年下半期(7~12 月期))の水準までは回復していない。売上見通しについては、「変わらない」、「やや減少する」の割合が上昇し、「減少する」、「無回答」の割合が下落した。DI も前回と横ばいで、依然として厳しい見通しのままであった。これらの理由についても、やはり新型コロナウイルス感染症の流行に関する言及が多く見られたほか、GoTo キャンペーンといった政策への言及も見られた。

販売価格見通しについて、今回調査では、前回と比べ、「低下する」の割合が大きく低下した。この結果、DI は改善したものの、2 期連続で 50%を下回り、前年同期の水準までは回復していない。雇用見通しについては、今回調査では、前回と比べ、「やや不足する」の割合が上昇し、「やや過剰となる」、「過剰となる」

の割合が低下した。こちら、DIは改善したものの、2期連続で50%を下回り、前年同期の水準までは回復していない。資金繰りの状況に関して、今回調査では、前回と比べ、「どちらともいえない」の割合が大きく上昇し、「やや悪化した」の割合が大きく低下した。DIでみると、前回から改善し、前年同時期の水準までほぼ回復したものの、3期連続で50%を下回った。資金繰りの状況についての回答の理由についてみると、「売上高の変化」が61.4%と、他の項目と比べ突出している。賃金等の状況について、今回調査では、前回と比べ、「ボーナスの減額」の割合が上昇し、「定期昇給を実施」の割合が低下するといったように、賃下げの傾向が顕著にみられる。

今回のアンケート調査で追加した、「新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響」に関する質問では、「コロナ禍前に比べ需要全体が減少した」、「コロナ禍前に比べ従業員の勤務に困難が生じたままだ」、「コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した」といった回答が上位に挙げられた。このように、多くの企業が需要の減少の影響を継続して受けている様子が見え始める。他方、供給についても継続した減少がみられるものの、需要面に比べると比較的影響が軽微である様子が観察された。

ヒアリング調査では、コロナ禍の影響が極めて甚大であることと同時に、業種や企業によって影響の大きさに差があることも明らかになったものと思われる。また、このヒアリング調査は、令和2年の年末からの感染拡大により、令和3年1月に大都市圏を中心に緊急事態宣言が再発出された最中の令和3年2月に実施されたものである。比較的影響の流行が収まっていた令和2年11～12月に実施した、令和2年度第2回アンケート調査と、ヒアリング調査ではそのような感染症流行の背景の違いも念頭に置き、結果を観察すべきであろう。

以上のように、令和2年下半年(7～12月)の小山市の景況感に関して、前回同様、多くの企業・店舗が新型コロナウイルス感染症の流行により経済的に負の影響を受けてはいるものの、改善の兆しも見え始めている。また、景気の先行きについては今後の感染症流行をどのように判断するか、ウイルスのワクチン接種が順調に進むのか、といった観点から意見が分かれたが、先行きの不透明感から、前回、前々回の調査と同程度の厳しい見方が続いている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の推移やワクチン接種の進展を注視し、感染症流行の収束後を見据えた取り組みを進めていく必要があるだろう。

1. 調査の目的

小山市景気動向アンケート調査は、小山市の景気動向を把握するため、小山市の流通業、サービス業、製造業などの企業、店舗に対して小山市の景況、各業界の業況等をアンケート形式で調査したものである。

2. 調査対象・調査内容

2.1. 調査対象

令和2年11月から12月にかけて、小山市内の企業120社程度を対象に小山市の景気動向に関するアンケート調査を行い、44社から回答を得た。回収率は約37%である。

図表 2-1 回答企業の業種別構成

業種	社数(社)	
	今回	前回
流通業(小売業)	12	11
製造業	8	11
金融・保険業	4	4
運輸業	3	3
ホテル・旅館業	2	1
飲食業	0	0
通信・放送業	2	2
不動産・住宅業	4	4
サービス業	6	7
印刷業	1	1
不明	2	2
合計	44	46

(注) 前回は令和2年6月調査

前回調査(令和2年6月)に比べ

- ・ 増加した業種: 流通業(小売業)、ホテル・旅館業
- ・ 減少した業種: 製造業、サービス業

図表 2-2 回答企業の従業者数

従業員数 (人)	企業数 (社)	構成比 (%)		
		今回	前回	前々回
1~4	8	18.2	17.4	12
5~9	4	9.1	13.0	16
10~19	5	11.4	13.0	8
20~29	1	2.3	6.5	6
30~49	6	13.6	6.5	4
50~99	9	20.5	19.6	28
100 以上	8	18.2	19.6	16
不明	3	6.8	4.3	10
合計	44	100.0	100.0	100.0

(注) 前回は令和 2 年 6 月調査、前々回は令和元年 12 月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100%にならないことがある。

前回調査(令和元年 12 月)に比べ

- ・ 構成比が 2%ポイント以上上昇した従業者規模: 30~49 人
- ・ 構成比が 2%ポイント以上減少した従業者規模: 5~9 人、20~29 人

図表 2-3 回答企業の売上高

売上高 (円)	企業数 (社)	構成比 (%)		
		今回	前回	前々回
3,000 万未満	5	11.4	15.2	12
3,000 万~1 億未満	5	11.4	6.5	4
1 億~5 億未満	13	29.5	28.3	26
5 億~10 億未満	4	9.1	8.7	16
10 億以上	7	15.9	17.4	18
不明・該当なし	10	22.7	23.9	26
合計	44	100.0	100.0	102.0

(注) 前回は令和 2 年 6 月調査、前々回は令和元年 12 月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100%にならないことがある。

前回調査(令和元年 12 月)に比べ

- ・ 構成比が 2%ポイント以上上昇した年間売上高規模: 3,000 万円~1 億円未満
- ・ 構成比が 2%ポイント以上低下した年間売上高規模: 3,000 万未満

図表 2-4 回答企業における売上割合

小山市内の売上割合 (%)	企業数 (社)	構成比 (%)		
		今回	前回	前々回
80～100	15	34.1	32.6	22
60～79	12	27.3	15.2	22
40～59	2	4.5	13.0	8
20～39	6	13.6	13.0	18
0～19	6	13.6	21.7	20
不明・該当なし	3	6.8	4.3	12
合計	44	100.0	100.0	102.0

(注) 前回は令和2年6月調査、前々回は令和元年12月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても100%にならないことがある。

小山市内の売上割合が60%以上の企業数の合計は27社(61.4%)となった(前回調査: 47.8%)。

2.2. 調査内容

今回の調査内容は、質問 1 から質問 14 までは、従来の調査と同様に、景況感に関わる項目である。そのうち、質問 1 から質問 4 までは、全般的な小山市の景気の現状および先行きに関してたずね、質問 5 から質問 14 までは、回答企業自身についての現状および先行きに関してたずねている。また、質問 15、16 は新型コロナウイルス感染症の流行の経済への影響に関する質問事項となっている。

質問 1: 小山市の景気の現状(水準)

質問 2-1: 質問 1 の回答理由

質問 2-2: 質問 2-1 の回答理由

質問 3: 令和 3 年上半期(1~6 月期) の小山市の景気見通し

質問 4: 質問 3 の回答理由

質問 5: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

質問 6-1: 質問 5 の回答理由(家計消費向け取引)

質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)

質問 6-1: 質問 5 の回答理由(企業消費向け取引)

質問 6-2: 具体的な回答(企業消費向け取引)

質問 7: 業界の小山市での売上見通し

質問 8: 質問 7 の回答理由

質問 9: 令和 3 年上半期(1~6 月期) の販売価格見通し

質問 10: 令和 3 年上半期(1~6 月期) の雇用見通し

質問 11: 令和 2 年下半期(7~12 月期) の資金繰りの状況

質問 12: 質問 11 の回答理由

質問 13: 令和 3 年度の賃金等の状況

質問 14: 質問 13 の回答理由

質問 15: 新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響

質問 16: 質問 15 の回答理由

3. 調査結果

3.1. 全般的な小山市の景気

質問 1 から質問 4 までは、全般的な小山市の景気についてたずねた。以下その結果を述べる。

3.1.1. 小山市の景気の現状(水準)(質問 1, 2-1, 2-2)

質問 1 では全般的な小山市の景気の現状(水準)をたずねた。令和 2 年下半期(7~12 月期)は「良い」0%、「やや良い」9.1%、「どちらともいえない」13.6%、「やや悪い」43.2%、「悪い」34.1%となった。前回と比べ、「悪い」の割合は大きく下がり、「やや良い」、「どちらともいえない」、「やや悪い」の割合は上昇している。前回調査(令和 2 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや良い」(+9.1)、「どちらともいえない」(+7.1)、「やや悪い」(+14.9)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「悪い」(-31.1)

となった。DI¹で見ると 24.4%と前回(10.3%)から上昇はみられるものの、前々回(38.5%)の水準までは回復していない DI は 4 期連続で 50%を下回った(図表 3-1,3-2)。

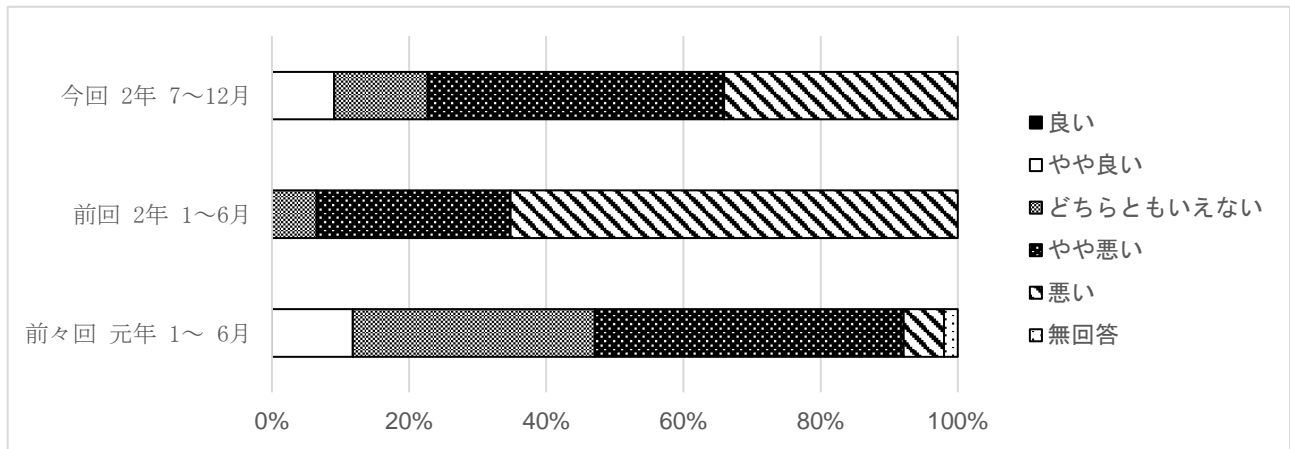
質問 1 の回答理由(質問 2-1)についてみると、「お客様や取引先の様子」(56.8%)、「小山市の人出の状況」(20.5%)、「周辺地域の様子」(11.4%)、「それ以外」(11.4%)が上位三位までの理由だった(図表 3-3)。「それ以外」の具体的な理由の大多数は新型コロナウイルス感染症流行によるものだった。

質問 1 の具体的な回答内容(質問 2-2)でも、新型コロナウイルス感染症流行に起因すると考えられる人出の減少が、様々な形で経済活動への負の影響を及ぼしていることが観察される。

¹ DI (Diffusion Index)とは、景気動向指数の一つであり、回答(%)の「良い」を 1、「やや良い」を 0.75、「どちらともいえない」を 0.5、「やや悪い」を 0.25、「悪い」を 0 として、構成比(無回答を除く)で加重平均したものである。DI が 50%を超えると景気回復、50%を下回ると景気悪化を示唆している。

質問 1: 小山市の景気の現状(水準)

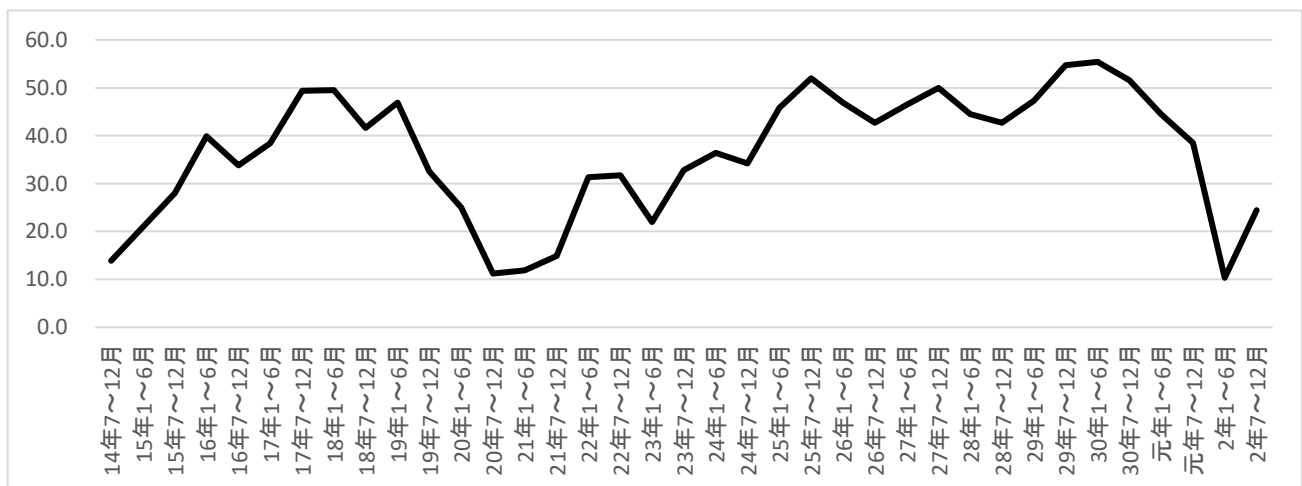
図表 3-1 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

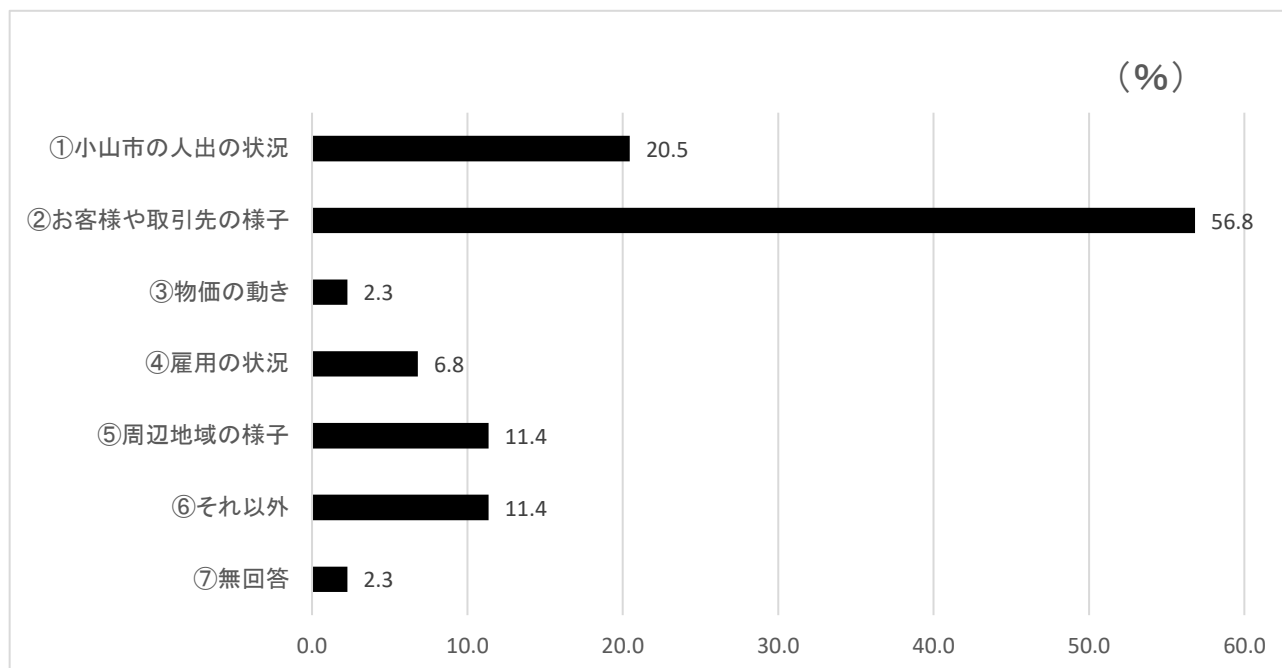
	良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回 2年 7～12月	0.0	9.1	13.6	43.2	34.1	0.0	24.4
前回 2年 1～6月	0.0	0.0	6.5	28.3	65.2	0.0	10.3
前々回 元年 1～6月	0.0	11.8	35.3	45.1	5.9	2.0	38.5

図表 3-2 DI の推移(%)



質問 2-1: 質問 1 の回答理由

図表 3-3 質問 1 と質問 2-1 のクロス集計



(%)

質問 2-1	①小山市の人出の状況	②お客様や取引先の様子	③物価の動き	④雇用の状況	⑤周辺地域の様子	⑥それ以外	無回答
質問 1							
良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや良い	2.3	6.8	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0
どちらともいえない	2.3	9.1	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0
やや悪い	11.4	22.7	0.0	6.8	6.8	2.3	0.0
悪い	4.5	18.2	2.3	0.0	0.0	9.1	2.3
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	20.5	56.8	2.3	6.8	11.4	11.4	2.3

(注)44社に対する比率(%).複数回答可のため合計は100%にならない。

質問 2-2: 質問 2-1 の回答理由

◆ やや良い:

- ・ 「飲食店に関して、春・夏のコロナ自粛に比べると、秋以降は去年レベルに戻っている為」(①小山市の人出の状況、⑤周辺地域の様子)
- ・ 「コロナ禍の中で主な取引先がスーパーマーケット(食品販売が主)の為に内食需要を反映し一時的な効果が出ています。」(②お客様や取引先の様子)

◆ どちらともいえない:

- ・ 「以前より空いているところが多い」(①小山市の人出の状況)
- ・ 「客先の設備投資抑制が懸念される」(②お客様や取引先の様子)

◆ やや悪い:

- ・ 「特に飲食店・居酒屋の入りが悪い」(①小山市の人出の状況)
- ・ 「お得意先に対する訪問回数が少なくなる。」(②お客様や取引先の様子)
- ・ 「来客も少なく(コロナ禍)購買意欲がなくなっているような気がします。仕事(雇用)も不安定なことが原因の1つかも。」(②お客様や取引先の様子、④雇用の状況、⑤周辺地域の様子)
- ・ 「レジャーや外食(飲食)自粛による家庭内支出減」(⑥それ以外)

◆ 悪い:

- ・ 「人の動きが少ない」(①小山市の人出の状況)
- ・ 「コロナ禍による会食の自粛要請の為、人出が少ない。」(②お客様や取引先の様子)
- ・ 「テレワーク生活様式の変化、車移動の主流化」(②お客様や取引先の様子)
- ・ 「コロナの影響で外食や宴会が自粛され、アルコールの消費が大幅に減少したため、売上げが減った。」(⑥それ以外)
- ・ 「新型コロナウイルスの影響で様々な業種で自粛の動きにより売上げが減少しているから。」(⑥それ以外)
など

3.1.2. 令和3年上半期(1～6月期)の小山市の景気見通し(質問3,4)

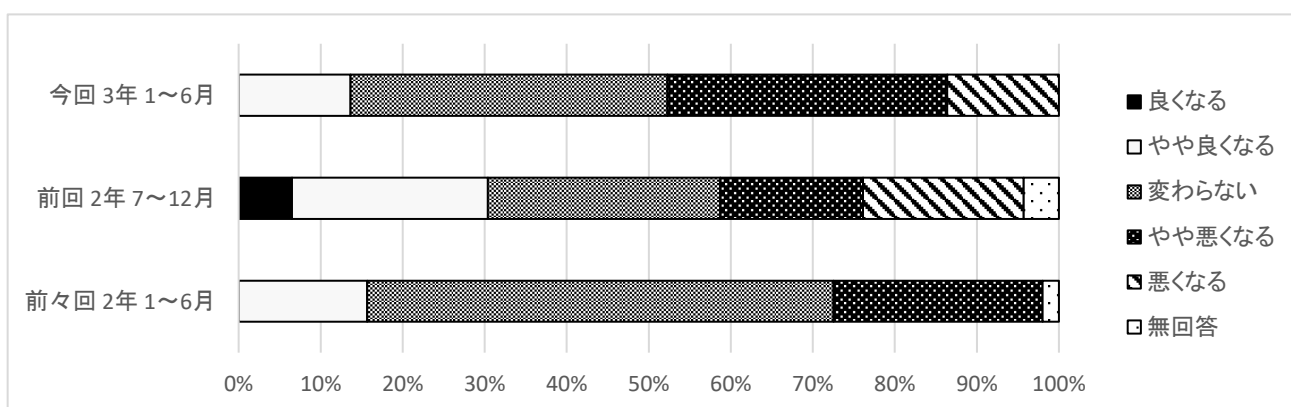
質問3の小山市の景気見通しに関して、令和3年上半期(1～6月期)は令和2年下半期と比べ、「良くなる」0.0%、「やや良くなる」13.6%、「変わらない」38.6%、「やや悪くなる」34.1%、「悪くなる」13.6%となった(図表3-4, 3-5)。前回と比べ「悪くなる」の割合が下落した一方で、「良くなる」、「やや良くなる」の割合も下落したため、全体として景気見通しは厳しいものとなった。

- ・ 3%ポイント以上増加: 「変わらない」(+10.3)、「やや悪くなる」(+16.7)
 - ・ 3%ポイント以上減少: 「良くなる」(-6.5)、「やや良くなる」(-10.3)、「悪くなる」(-6.0)、「無回答」(-4.3)
- となった。DIでみると38.1%と前回(44.9%)、前々回(47.6%)と横ばいの状況から下落し、4期連続で50%を下回った。

質問4の質問3の理由では、新型コロナウイルスの流行状況、ワクチン接種の状況によって景気見通しが左右されるという意見が多かった。先行きが見通せないこともあり、景気見通しは厳しく判断している意見がみられた。

質問3: 令和3年上半期(1～6月期)の小山市の景気見通し

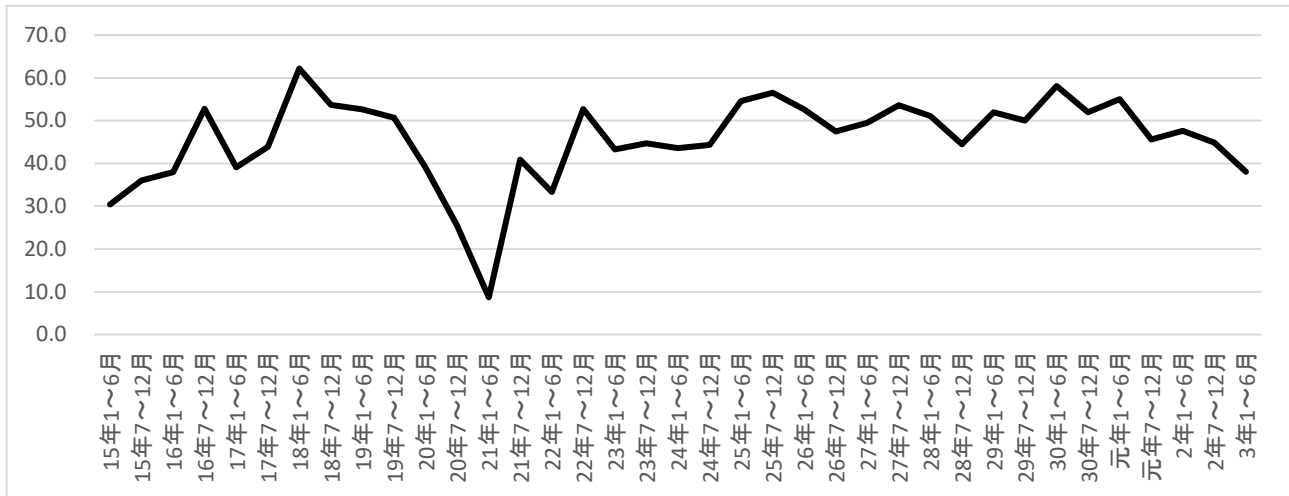
図表 3-4 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回 3年 1～6月	0.0	13.6	38.6	34.1	13.6	0.0	38.1
前回 2年 7～12月	6.5	23.9	28.3	17.4	19.6	4.3	44.9
前々回 2年 1～6月	0.0	15.7	56.9	25.5	0.0	2.0	47.6

図表 3-5 DI の推移(%)



質問 4: 質問 3 の回答理由

- ◆ やや良くなる
 - ・ 「2021 年上期には日本全国民にワクチンが回り、反動で V 字回復が見込まれるから。」
 - ・ 「コロナワクチン接種によるコロナの収束」
- ◆ 変わらない
 - ・ 「仕事の内容(業種)により上下があると思われる。」
 - ・ 「第3波の影響とワクチン次第だと思う。」
 - ・ 「コロナで減っていた仕事量が、増えてくることを想定しているが、減った働き方が戻らないのではないかと懸念している。」
- ◆ やや悪くなる
 - ・ 「これから資金繰りが厳しくなる企業が増加してくる」
 - ・ 「コロナのワクチンが完成し、不安がなくなり、日常が戻れば良くなるし、ワクチンが遅くなれば更に悪化する。」
- ◆ 悪くなる
 - ・ 「コロナウイルスの感染拡大により、会食の自粛」
 - ・ 「良くなる材料が見当たらない。」

など

3.2. 小山市における業界の景気

質問 5 から質問 14 までは、小山市における回答企業・店舗の業界景気動向をたずねた。以下その結果を述べる。

3.2.1. 業界の小山市での売上げ(質問 5, 6-1, 6-2)

業界の小山市での売上げについて、令和 2 年下半期(7~12 月期)は「増加した」0.0%、「やや増加した」20.5%、「変わらない」31.8%、「やや減少した」22.7%、「減少した」22.7%となった(図表 3-6, 3-7)。前回と比べ「やや減少した」、「減少した」の割合が下落し、「やや増加した」、「変わらない」の割合が上昇した。前回調査(令和 2 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや増加した」(+11.8)、「変わらない」(+20.9)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや減少した」(-9.9)、「減少した」(-23.0)

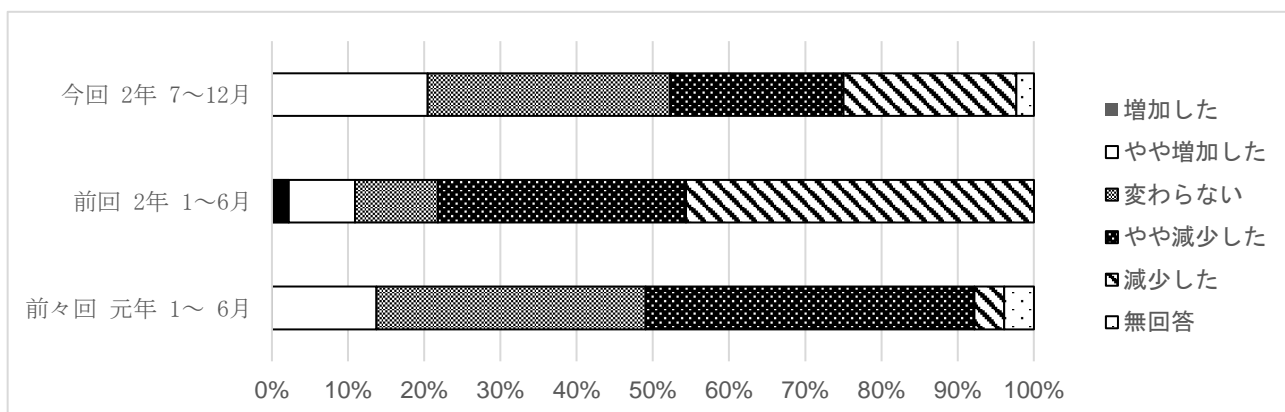
となった。DI でみると 37.8%と前回(22.3%)からは大きく改善したものの、前年同期間の前々回(40.3%)の水準までは回復せず、4 期連続で 50%を下回った。

質問 5 の回答の理由(質問 6-1)についてみると、家計向け取引の場合、「無回答」を除いて、「来客数の動き」(31.8%)、「販売量の動き」(25.0%)、「お客様の様子」(18.7%)が上位三位までの理由だった(図表 3-8)。質問 6-2 では新型コロナウイルス感染症の流行による負の影響が回答として多く見られたほか、GoTo キャンペーンといった政策への言及も見られた。

企業向け取引の場合、「無回答」を除いて、「受注量や販売量の動き」(36.4%)、「取引先の様子」(27.3%)、「競争相手の様子」(4.5%)が上位三位までの理由だった(図表 3-9)。質問 6-2 では家計向け同様に、新型コロナウイルス感染症の流行の負の影響がみられたが、業種や企業によっては回復傾向もみられる。

質問 5: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

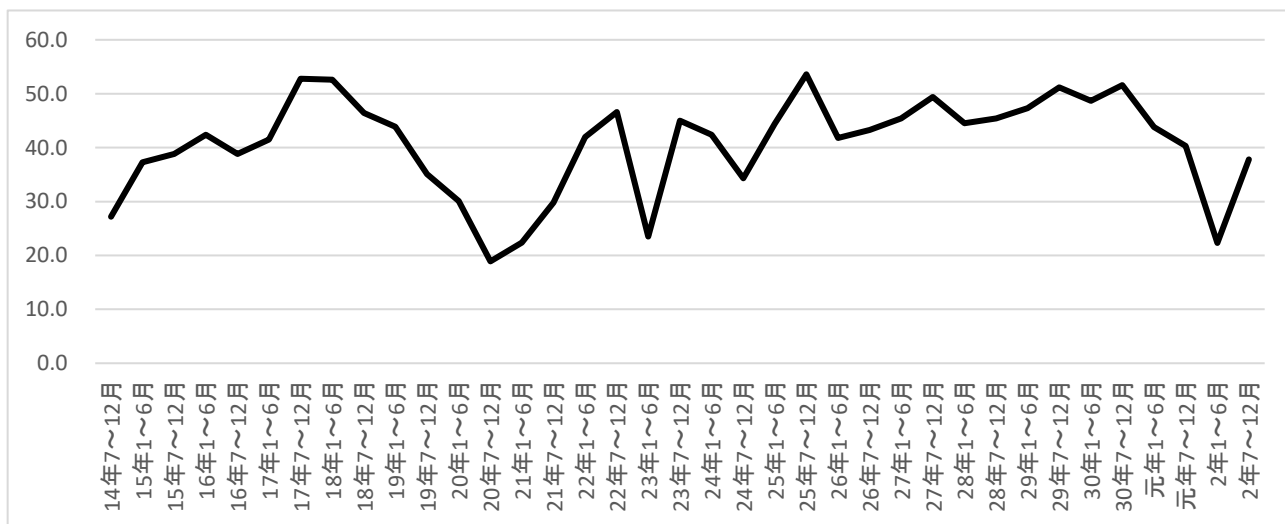
図表 3-6 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

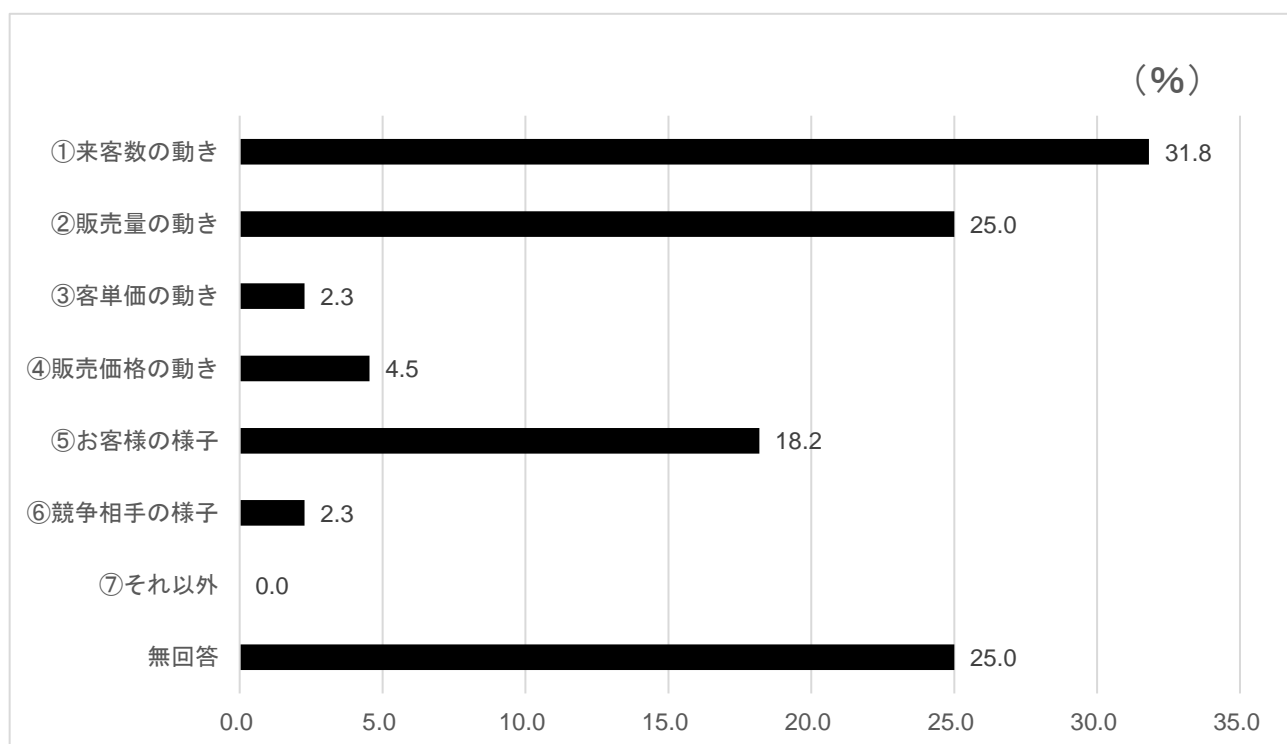
	増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	減少した	無回答	DI
今回 2年 7~12月	0.0	20.5	31.8	22.7	22.7	2.3	37.8
前回 2年 1~6月	2.2	8.7	10.9	32.6	45.7	0.0	22.3
前々回 元年 1~6月	0.0	13.7	35.3	43.1	3.9	3.9	40.3

図表 3-7 DI の推移(%)



質問 6-1: 質問 5 の回答理由(家計消費向け取引)

図表 3-8 質問 5 と質問 6-1(家計消費向け取引)のクロス集計



(%)

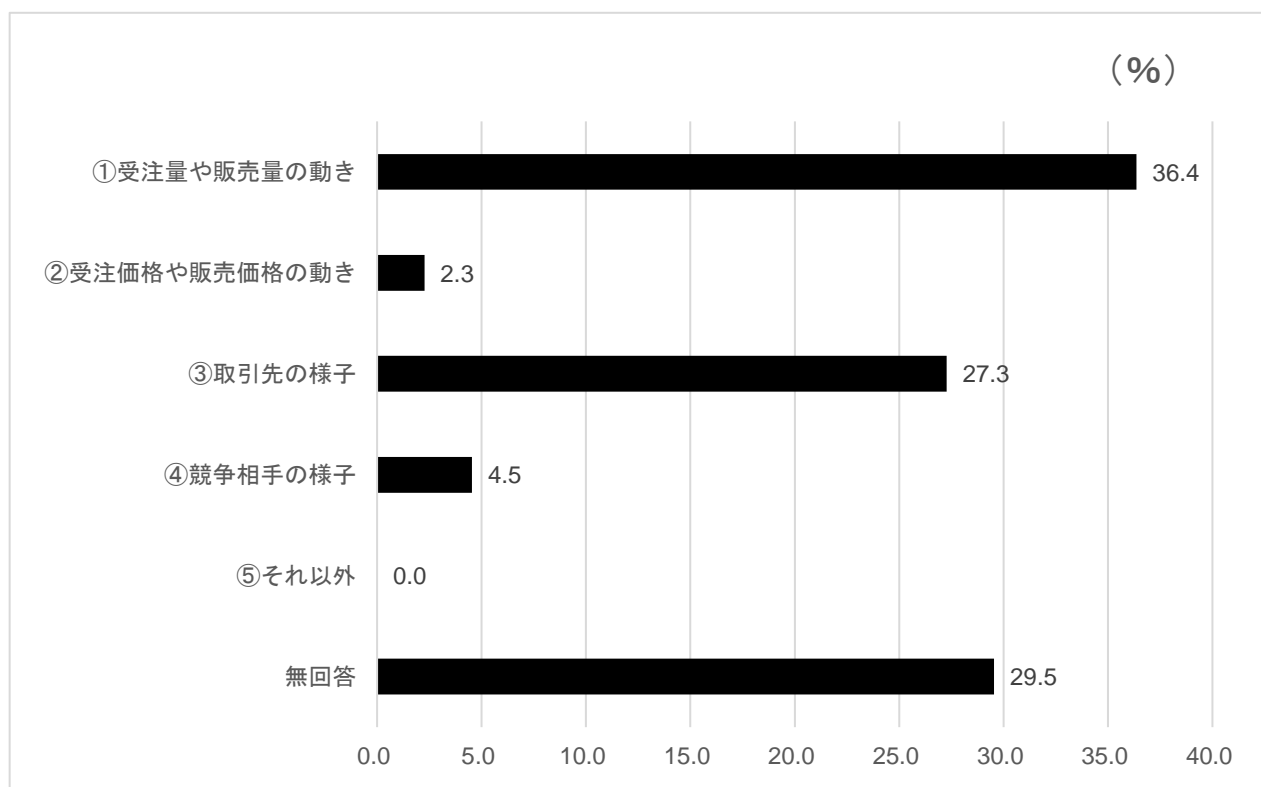
質問 6-1	①来客数の動き	②販売量の動き	③客単価の動き	④販売価格の動き	⑤お客様の様子	⑥競争相手の様子	⑦それ以外	無回答
増加した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや増加した	6.8	6.8	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	2.3
変わらない	4.5	13.6	0.0	2.3	6.8	0.0	0.0	9.1
やや減少した	6.8	4.5	2.3	0.0	2.3	2.3	0.0	6.8
減少した	13.6	0.0	0.0	2.3	4.5	0.0	0.0	4.5
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3
計	31.8	25.0	2.3	4.5	18.2	2.3	0.0	25.0

(注)無回答は家計向け取引のない企業が含まれる

表の%は 44 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 6-1: 質問 5 の回答理由(企業消費向け取引)

図表 3-9 質問 5 と質問 6-1(企業消費向け取引)のクロス集計



質問 6-1	①受注量 や販売量	②受注価格 や販売価格	③取引先 の様子	④競争相手 の様子	⑤それ以外	無回答
増加した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや増加した	9.1	0.0	4.5	0.0	0.0	6.8
変わらない	6.8	0.0	13.6	2.3	0.0	9.1
やや減少した	11.4	0.0	4.5	0.0	0.0	6.8
減少した	9.1	2.3	4.5	2.3	0.0	4.5
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3
計	36.4	2.3	27.3	4.5	0.0	29.5

(注) 無回答には企業向け取引のない企業(店舗)が含まれる。

表の%は集計 44 社に対する比率。

質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)

- ◆ やや増加した
 - ・ 「上期は緊急事態宣言による休業などあったため(下期は GoTo により若干うごきあり)」
(不動産・住宅業)
- ◆ 変わらない
 - ・ 「コロナの状況と一緒に、来客も変わらないと感じているため」(流通業(小売業))
- ◆ やや減少した
 - ・ 「新型コロナウイルスの影響により、来客数も売上げも減少している。」(不動産・住宅業)
 - ・ 「売上減のため」(サービス業)
- ◆ 減少した
 - ・ 「来客数の減少」(金融・保険業)
など

質問 6-2: 具体的な回答(企業消費向け取引)

- ◆ やや増加した
 - ・ 「7～9 月に出荷量が増えた。」(製造業)
- ◆ 変わらない
 - ・ 「コロナの影響で設備投資が消極的になっているため」(不明)
- ◆ やや減少した
 - ・ 「生産数量の減少」(製造業)
 - ・ 「実際のコロナ禍による影響で、1～6月は月平均同月前年比 20%売上げ減、7～12 月で 25%減となっている為。」(運輸業)
- ◆ 減少した
 - ・ 「業界の新年度スタートである 9 月以降、製品が供給されず、今後も見通しがないため。」(流通業(小売業))
など

3.2.2. 業界の小山市での売上見通し(質問 7, 8)

業界の小山市での売上見通しに関して、令和3年上半期(7~12月期)は令和2年下半期と比べ、「増加する」0.0%、「やや増加する」15.9%、「変わらない」36.4%、「やや減少する」29.5%、「減少する」15.9%となった(図表 3-10, 3-11)。前回、前々回と比べ「減少する」の割合が大きく下落したものの、「やや減少する」、「変わらない」の割合が上昇した。前回調査(令和元年12月)と比べ、

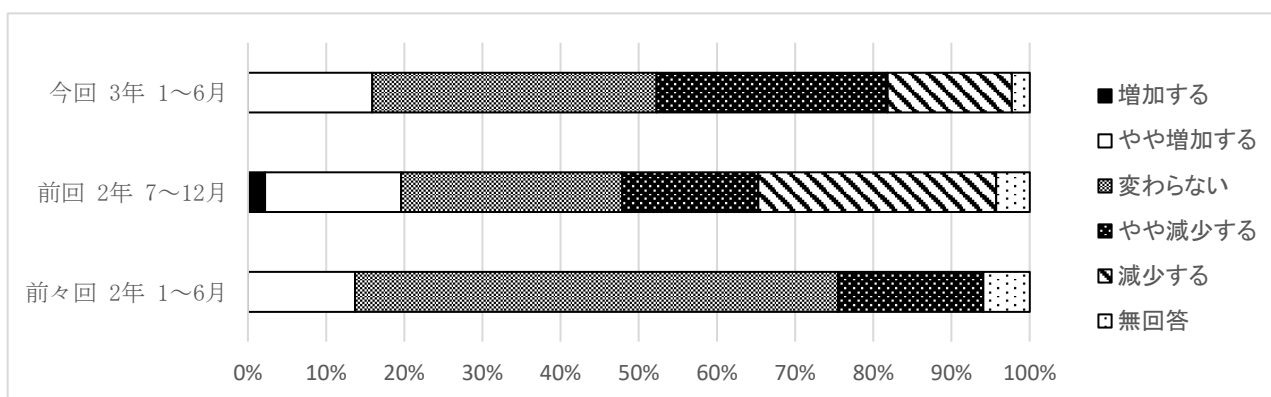
- ・ 3%ポイント以上増加: 「変わらない」(+8.1)、「やや減少する」(+12.1)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「減少する」(-14.5)

となった。DI でみると 38.4%と前回(35.2%)から上昇傾向にあるが、4期連続で50%を下回った。

質問7の回答の理由(質問8)についてみると、将来の新型コロナウイルスの流行状況が不明瞭であるため、全体的に売り上げ見通しが低迷するとの見通しがある。一方で、在宅ワークの増加から、都心から郊外への住居を移すという、この状況下特有の需要の変化の見込みも挙げられていた。

質問 7: 業界の小山市での売上見通し

図表 3-10 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)

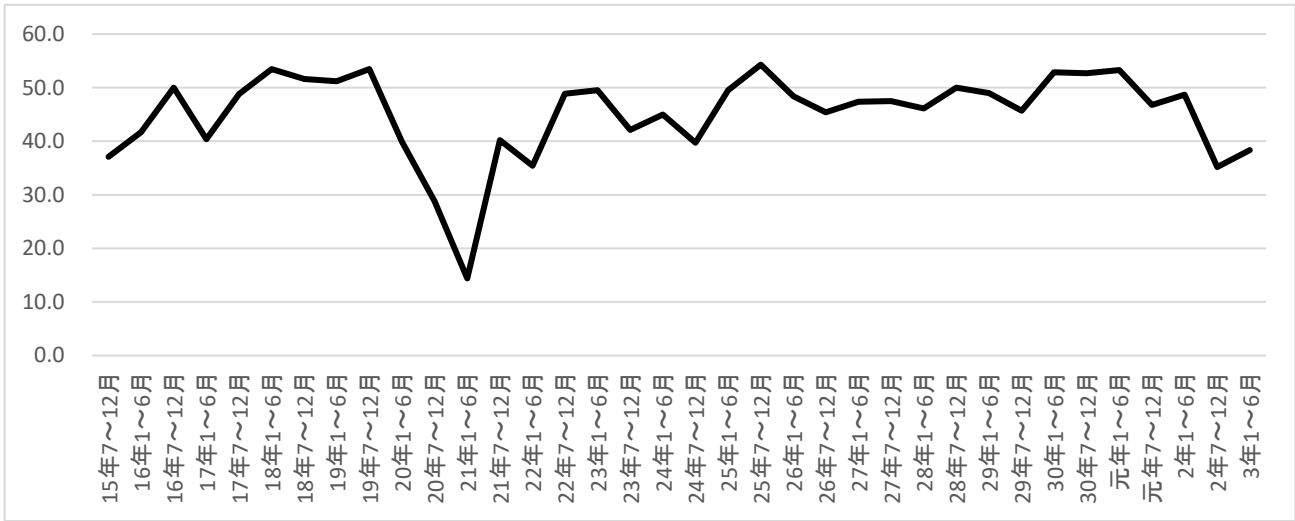


(%)

見通しの対象時期	増加する	やや増加する	変わらない	やや減少する	減少する	無回答	DI
今回 3年 1~6月	0.0	15.9	36.4	29.5	15.9	2.3	38.4
前回 2年 7~12月	2.2	17.4	28.3	17.4	30.4	4.3	35.2
前々回 2年 1~6月	0.0	13.7	61.8	18.6	0.0	5.9	48.7

(注) 複数選択した回答は無回答に分類した。

図表 3-11 DI の推移(%)



質問 8: 質問 7 の回答理由

◆ やや増加した

- ・ 「コロナウイルスの感染が落ち着いてくる」(ホテル・旅館業)
- ・ 「新型コロナウイルスの影響で在宅ワークが増加し、都心から郊外に住まいを求める方が増えてくる。」(不動産・住宅業)

◆ 変わらない

- ・ 「コロナウイルスの影響がまだ続くと思われるため。」(流通業(小売業))
- ・ 「不動産価格はそれほど変わらない気がする。ただ、お客様の購買意欲に変化があると違ってくるかもしれません。」(不動産・住宅業)

◆ やや減少した

- ・ 「受注量が減ると見込まれている。」(製造業)
- ・ 「需要の減少」(金融・保険業)

◆ 減少した

- ・ 「すべてコロナ次第。」(流通業(小売業))
- ・ 「人の動きの減少」(運輸業)
など

3.2.3. 令和3年上半期(1～6月期)の販売価格見通し(質問9)

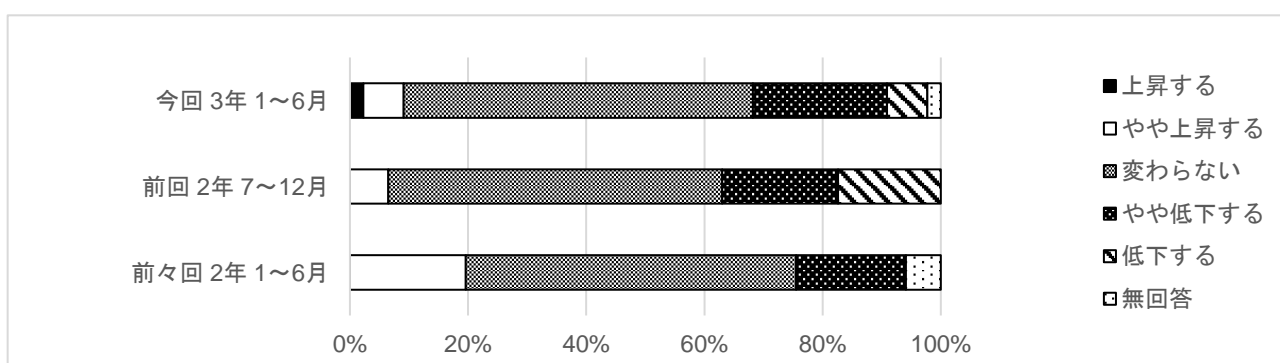
販売価格見通しについて、令和3年上半期(1～6月期)は令和2年下半期と比べ、「上昇する」2.3%、「やや上昇する」6.8%、「変わらない」59.1%、「やや低下する」22.7%、「低下する」6.8%となった(図表3-12、3-13)。前回と比べ「低下する」の割合は下落した。前回調査(令和2年6月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや低下する」(+3.1)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「低下する」(-10.6)

となった。DIで見ると43.6%と前回(38.0%)から改善したものの、前年同時期の前々回(50.3%)までは回復せず、2期連続で50%を下回った。

質問9: 令和3年上半期(1～6月期)の販売価格見通し

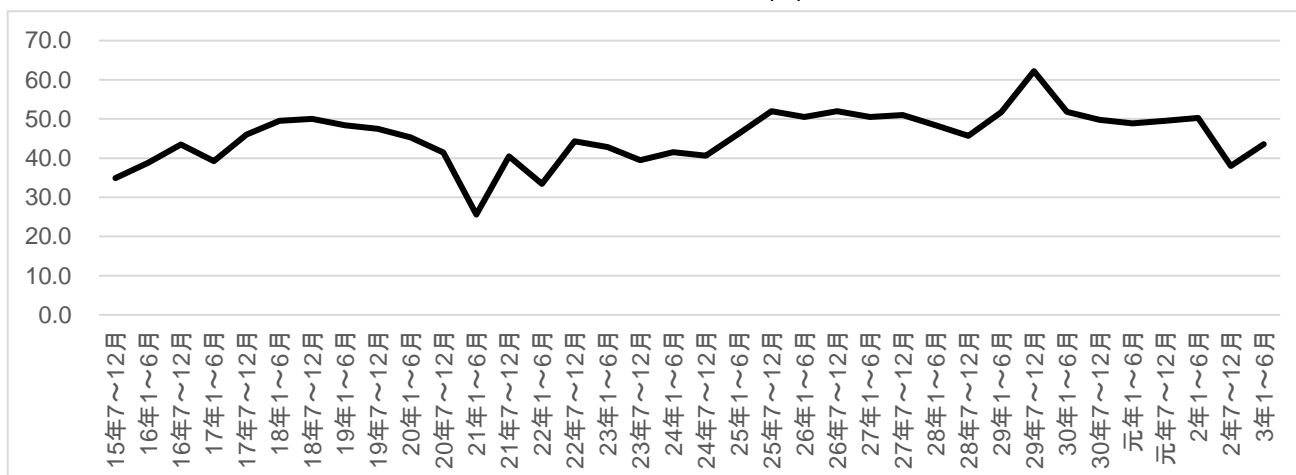
図表 3-12 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回 3年 1～6月	2.3	6.8	59.1	22.7	6.8	2.3	43.6
前回 2年 7～12月	0.0	6.5	56.5	19.6	17.4	0.0	38.0
前々回 2年 1～6月	0.0	19.6	55.9	18.6	0.0	5.9	50.3

図表 3-13 DIの推移(%)



3.2.4. 令和3年上半期(1～6月期)の雇用見通し(質問10)

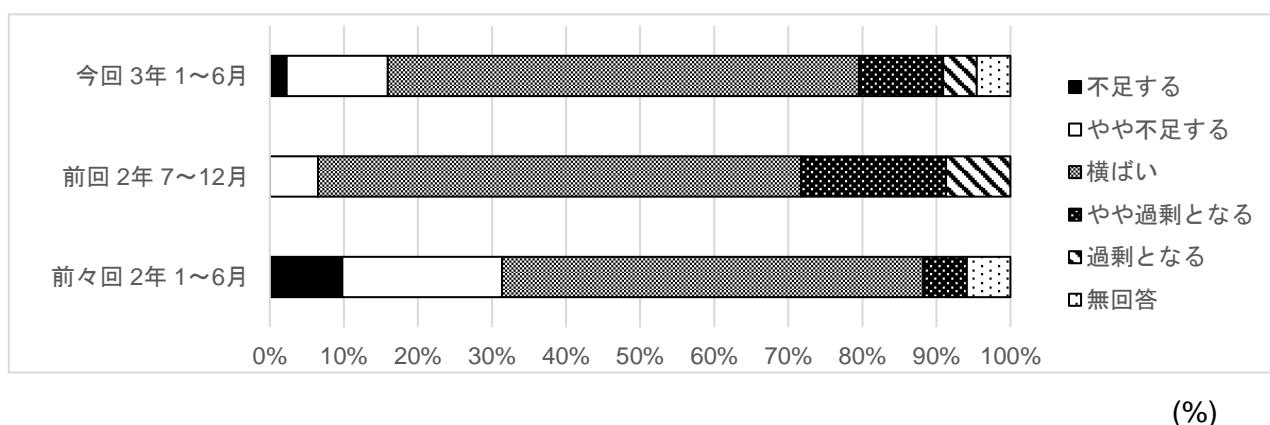
質問10の雇用見通しに関して、令和3年上半期(1～6月期)は令和2年下半期と比べ、「不足する」2.3%、「やや不足する」13.6%、「横ばい」63.6%、「やや過剰となる」11.4%、「過剰となる」4.5%となった(図表3-14, 3-15)。前回と比べ「やや不足する」の割合が上昇し、「やや過剰となる」、「過剰となる」の割合が下落した。前回調査(令和元年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや不足する」(+7.1)、「無回答」(+4.5)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや過剰となる」(-8.2)、「過剰となる」(-4.2)

となった。DIでみると49.4%と、前回(42.4%)から改善したものの、前年同時期の前々回(59.4%)までは回復せず、2期連続で50%を下回った。

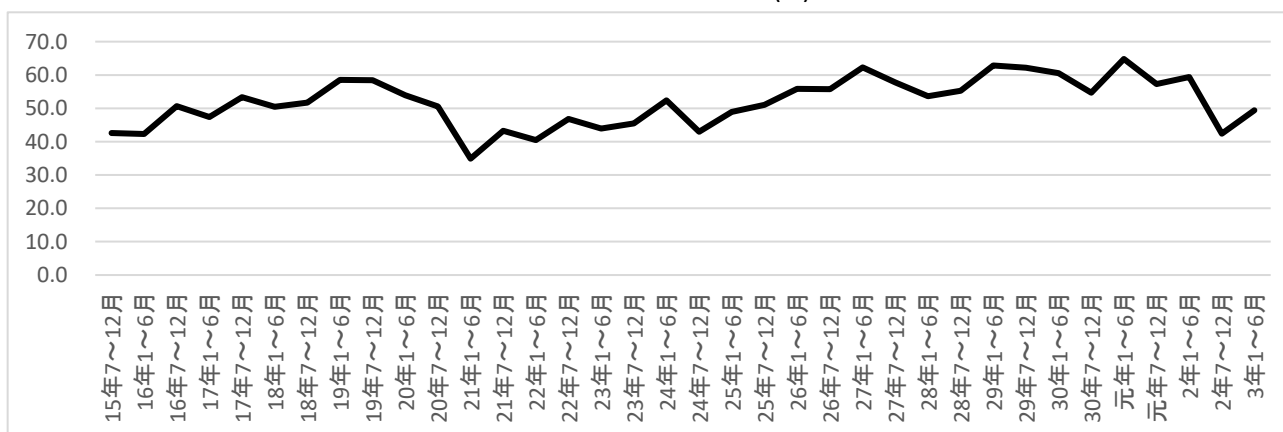
質問10: 令和3年上半期(1～6月期)の雇用見通し

図表 3-14 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



見通しの対象時期	不足する	やや不足する	横ばい	やや過剰となる	過剰となる	無回答	DI
今回 3年 1～6月	2.3	13.6	63.6	11.4	4.5	4.5	49.4
前回 2年 7～12月	0.0	6.5	65.2	19.6	8.7	0.0	42.4
前々回 2年 1～6月	9.8	21.6	56.9	5.9	0.0	5.9	59.4

図表 3-15 DIの推移(%)



3.2.5. 令和2年下半期(7～12月期)の資金繰りの状況(質問11, 12)

質問11の資金繰りの状況に関して、令和2年下半期(7～12月期)は、「改善した」0.0%、「やや改善した」18.2%、「どちらともいえない」52.3%、「やや悪化した」18.2%、「悪化した」9.1%となった(図表3-16, 3-17)。前回と比べ「やや改善した」、「どちらともいえない」の割合が上昇し、「改善した」、「やや悪化した」、「悪化した」の割合が低下した。特に、「どちらともいえない」、「やや悪化した」の割合は大きく変化した。前回調査(令和元年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや改善した」(+9.5)、「どちらともいえない」(+26.2)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「改善した」(-8.7)、「やや悪化した」(-20.9)、「悪化した」(-3.9)

となった。DIで見ると45.3%と、前回(39.8%)から改善し、前年同時期の前々回(47.0%)までほぼ回復したが、3期連続で50%を下回った。

質問11の回答の理由(質問12)についてみると、「無回答」を除いて、「売上高の変化」(61.4%)、「金融機関の貸出態度の変化」(11.4%)、「設備資金需要の変化」(7.5%)、「人件費の変化」(6.8%)、「人件費の変化」(6.8%)、「その他」(6.8%)が上位三位までの理由だった(図表3-18)。

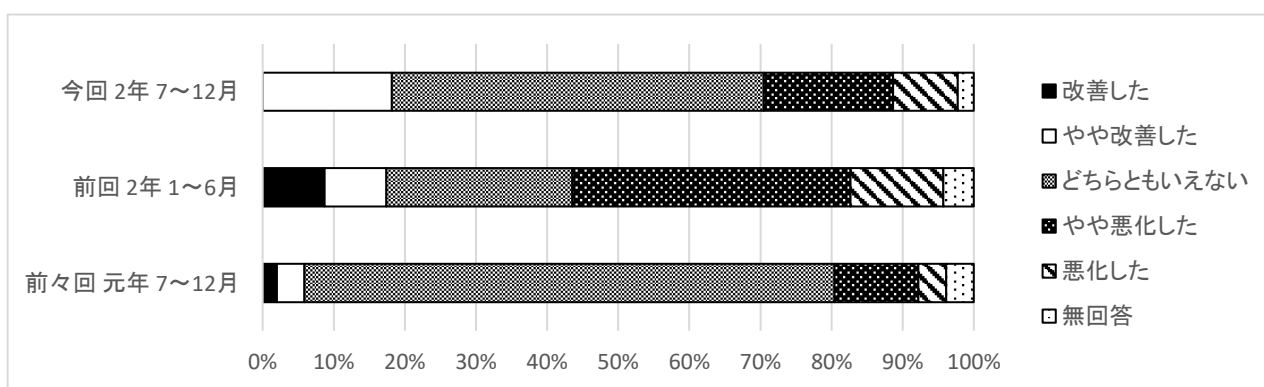
前回調査(令和2年6月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「売上高の変化」(+8.9%)、「設備資金重要の変化」(+4.6%)、「金融機関の貸出態度の変化」(+7.1%)、「無回答」(+9.5%)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(-8.6%)、「金融政策、金利の変化」(-6.4%)、「その他」(-12.8%)

となった。

質問11: 令和2年下半期(7～12月期)の資金繰りの状況

図表 3-16 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)

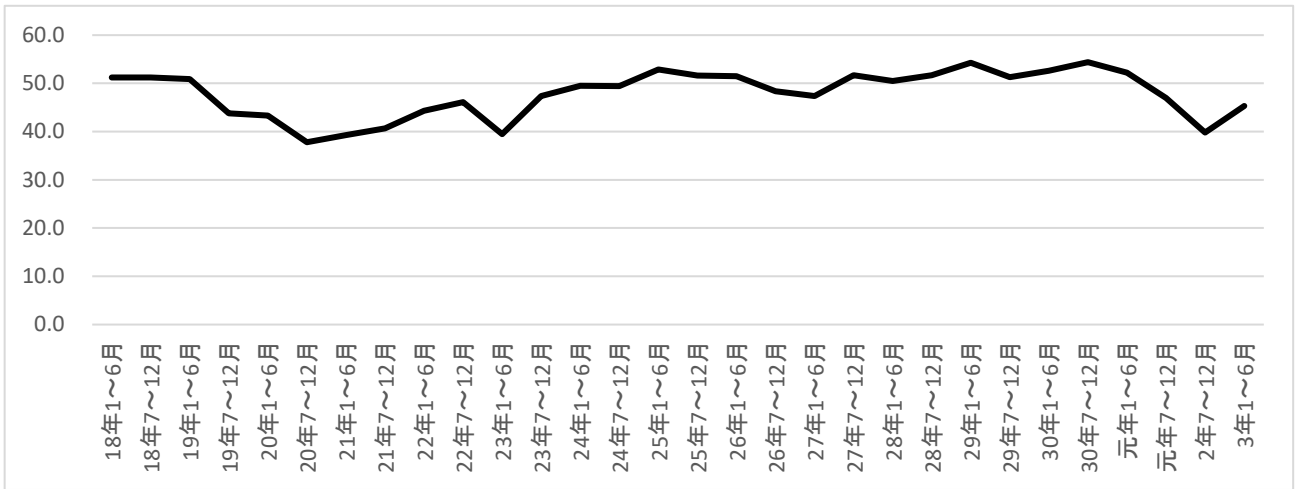


(%)

	改善した	やや改善した	どちらともいえない	やや悪化した	悪化した	無回答	DI
今回 2年 7～12月	0.0	18.2	52.3	18.2	9.1	2.3	45.3
前回 2年 1～6月	8.7	8.7	26.1	39.1	13.0	4.3	39.8
前々回 元年 7～12月	2.0	3.9	74.5	11.8	3.9	3.9	47.0

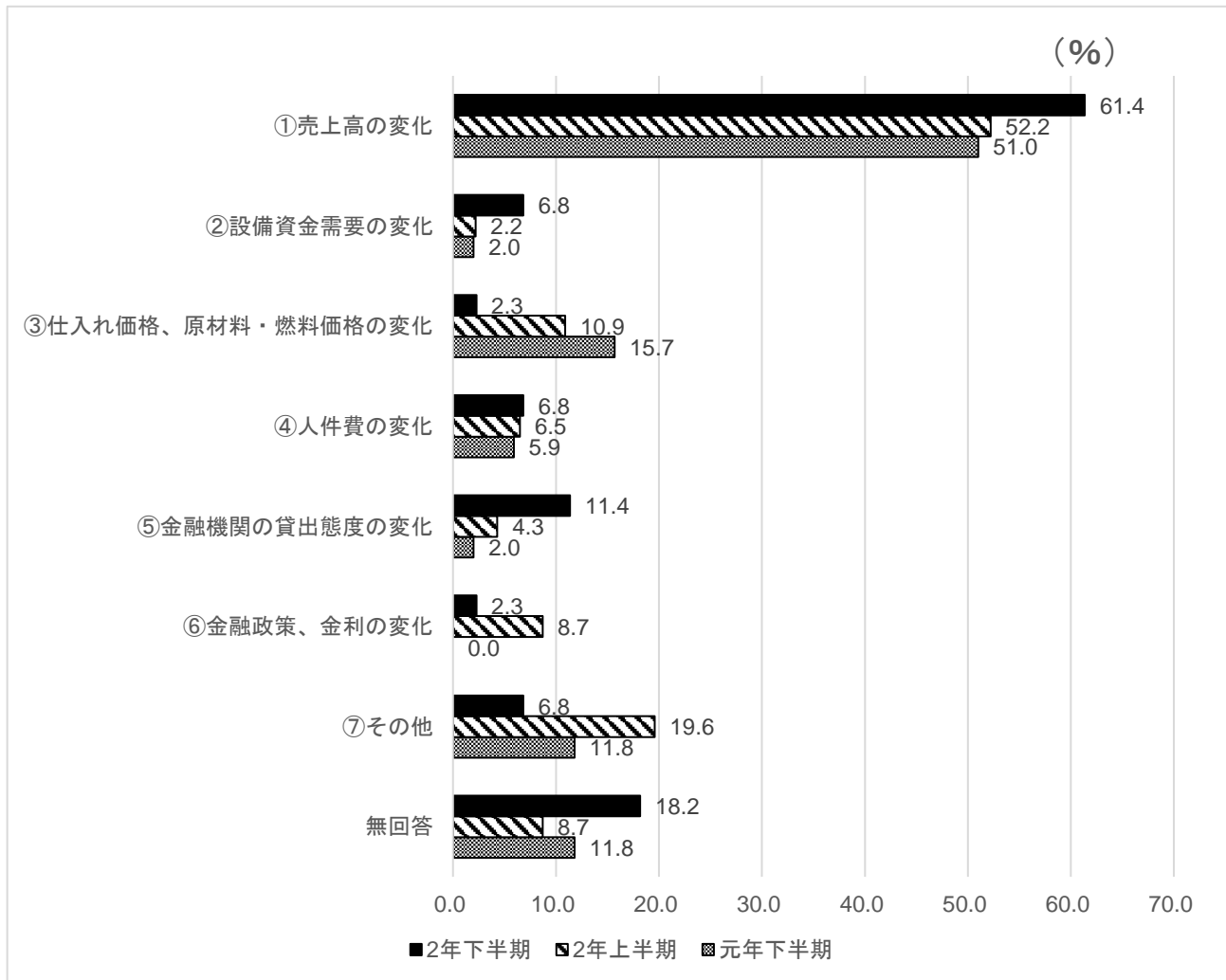
(注) 複数選択した回答は無回答に分類した。

図表 3-17 DI の推移(%)



質問 12: 質問 11 の回答理由

図表 3-18 回答の割合(前回、前々回との比較を含む)



質問 12	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無回答
質問 11								
改善した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや改善した	11.4	0.0	0.0	0.0	9.1	2.3	0.0	0.0
どちらともいえない	29.5	6.8	2.3	6.8	0.0	0.0	2.3	13.6
やや悪化した	11.4	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	2.3	2.3
悪化した	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3
合計	61.4	6.8	2.3	6.8	11.4	2.3	6.8	18.2

44 社に対する比率%。複数回答可のため合計は 100%にならない。複数回答可のため合計は 100%にならない。

3.2.6. 令和2年度の賃金等の状況(質問 13, 14)

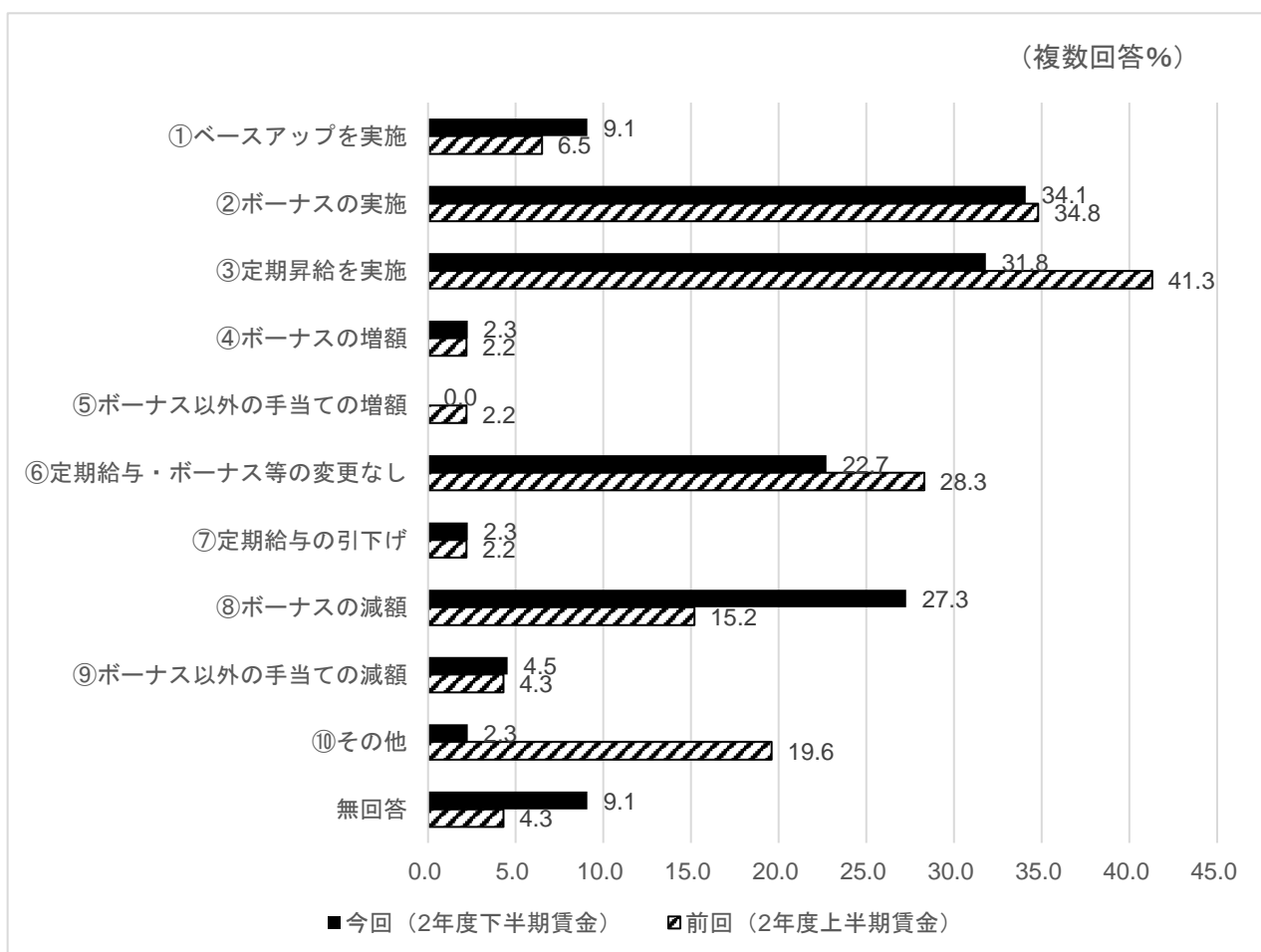
前回調査(令和2年6月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「ボーナスの減額」(+12.1)、
- ・ 3%ポイント以上減少: 「定期昇給を実施」(-9.5)、「定期給与・ボーナス等の変更なし」(-5.6%)、「その他」(-17.3%)

となった(図表 3-19)。

質問 13: 令和2年度の賃金等の状況

図表 3-19 回答の割合(前期との比較を含む)



質問 14: 質問 13 の回答理由

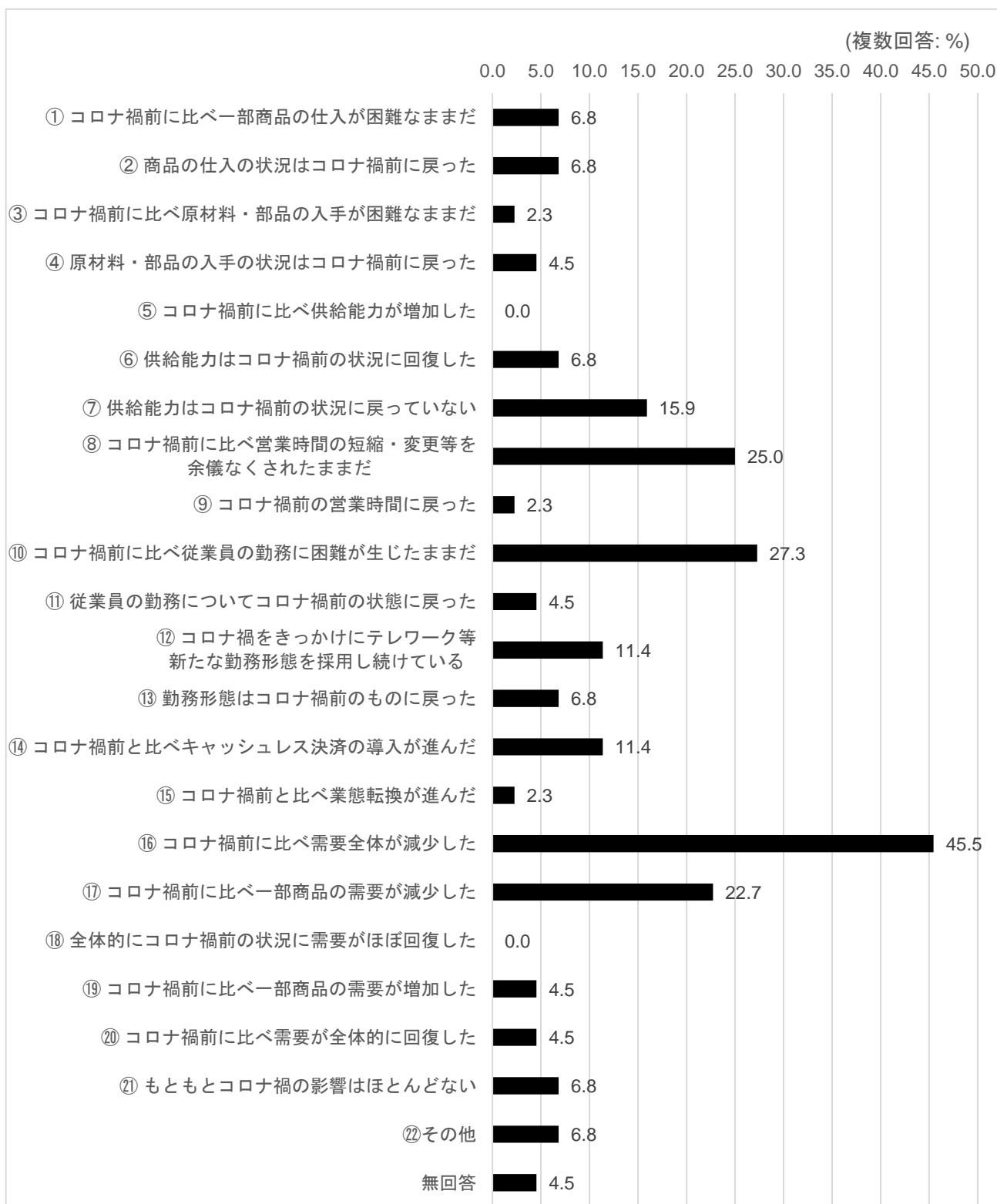
- ◆ ①ベースアップを実施
 - ・ 「売上は落ちているが、従業員の生活も大事。」
- ◆ ②ボーナスの実施、③定期昇給を実施
 - ・ 「昨年と比較し、金額(ボーナス)は下がっているが、他は変わらない。」
 - ・ 「資金繰りが良くなった。利益の分配。」
- ◆ ③定期昇給を実施、④ボーナスの増額
 - ・ 「ボーナスは利益率で決まっているため。」
- ◆ ⑥定期給与・ボーナス等の変更なし
 - ・ 「業績は良くありませんが、社員の生活も考え無理(銀行借入)しても、今迄通りの(賃金・賞与)を支払いました。」
- ◆ ⑦定期給与の引下げ、⑧ボーナスの減額
 - ・ 「雇用を維持するためには上記のような施策をするしかない。」
- ◆ ⑧ボーナスの減額
 - ・ 「売上高が減少したため」
 - ・ 「コロナ禍の影響によって、雇用調整を実施している為、社員の休業が多くボーナスを減額した。」
- ◆ ⑨ボーナス以外の手当での減額
 - ・ 「売上の減少にある」
 - など

3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問

質問 15 では新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響について、質問 16 ではその理由をたずねた。その結果(複数回答可)をみると、「コロナ禍前に比べ需要全体が減少した」(45.5%)、「コロナ禍前に比べ従業員の勤務に困難が生じたままだ」(27.3%)、「コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたままだ」(25.0%)、「コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した」(22.7%)、「供給能力はコロナ禍前の状況に戻っていない」(15.9%)が上位の理由として挙げられていた (図表 3-20)。その他の理由としては、「各種プレミアム券の活用・効果があり大変ありがたい。」、「元々コロナ前から従業員を少なくしているので、勤務体制は変化はない。」、「集合研修、集合会議の減少」が挙げられていた。

質問 15: 新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響

図表 3-20 回答の割合



(注) 44社に対する比率。複数回答があり、合計は100%にならない。

質問 16: 質問 15 の回答理由

- ◆ ⑬ 勤務形態はコロナ禍前のものに戻った
 - ・ 「結果的に大きく変わった事はないが、会議や研修などオンライン対応で取り組むことが出来ている。」
- ◆ ⑯ コロナ禍前に比べ需要全体が減少した
 - ・ 「各種団体等の行事がなくなり、一般商品やトロフィ、カップ、メダルなどの注文がない。」
 - ・ 「イベントの中止により、販売場所が減少した。」
- ◆ ⑰ コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した
 - ・ 「不動産業の為、来客する一般のお客様は少なくなったように感じるが、不動産の動きはそれほど変わらないような気がします。」
- ◆ ㉑ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
 - ・ 「受注物件がコロナの影響なく予定通り動いていた。」
- ◆ ① コロナ禍前に比べ一部商品の仕入が困難なままだ、⑦ 供給能力はコロナ禍前の状況に戻っていない、⑯ コロナ禍前に比べ需要全体が減少した、⑲ コロナ禍前に比べ一部商品の需要が増加した
 - ・ 「普段なら半年待ちの注文も受け入れているが、今期は先行き不透明なため、受注をお断りしている。」
- ◆ ⑩ コロナ禍前に比べ従業員の勤務に困難が生じたままだ、⑫ コロナ禍をきっかけにテレワーク等新たな勤務形態を採用し続けている、⑯ コロナ禍前に比べ需要全体が減少した
 - ・ 「コロナで大きく需要が減退したことにつきる。」
- ◆ ⑭ コロナ禍前と比べキャッシュレス決済の導入が進んだ、⑰ コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した
 - ・ 「大口の注文が入らなくなった」
- ◆ ② 商品の仕入の状況はコロナ禍前に戻った、⑥ 供給能力はコロナ禍前の状況に回復した、⑩ コロナ禍前に比べ従業員の勤務に困難が生じたままだ、⑫ コロナ禍をきっかけにテレワーク等新たな勤務形態を採用し続けている、⑮ コロナ禍前と比べ業態転換が進んだ、㉒ コロナ禍前に比べ需要が全体的に回復した
 - ・ 「・働き方は変化し、事務所の在籍率を下げ、会議も WEB になった。 ・在宅ワークが増加したため、郊外である小山市に住む需要があり、不動産事業の売上げが伸びている。」
- ◆ ⑥ 供給能力はコロナ禍前の状況に回復した、⑧ コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたままだ、⑭ コロナ禍前と比べキャッシュレス決済の導入が進んだ、⑯ コロナ禍前に比べ需要全体が減少した、⑰ コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した
 - ・ 「・営業時間:専門店を中心に一部営業時間短縮 ・キャッシュレス決済は大幅増 ・売上は大きく減」
- ◆ ⑧ コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたままだ、⑯ コロナ禍前に比べ需要全体が減少した
 - ・ 「・会食の自粛要請を受けたお客様の行動 ・コロナウイルス感染防止の為、ソーシャルディスタンスを実施し、席数減少をしている。」
 - など

4. 小山市経済動向ヒアリング調査

例年、ヒアリング調査(聞き取り調査)は、白鷗大学ビジネス開発研究所に小山市の経済動向に敏感な代表的業種の方々にお集まりいただき実施してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染対策のため、令和3年2月に書面にて行った。業種は自動車販売、小売業(スーパーマーケット)、銀行、タクシー、住宅産業、情報サービス、テレビ放送、スポーツ事業、製造業(鋼材)および小山商工会議所の方々である。また、各業界関係者へのヒアリング調査結果を受けて、白鷗大学経営学部の小笠原教授(ビジネス開発研究所長)からコメントがあった。

(自動車販売)

1度目の緊急事態宣言では行動制限が厳しく、面談、商談が大きく減少したため、売上が大きく減少した。2度目は店舗内でのコロナ対策も進み、お客様の来場も戻りつつあった中で緊急事態宣言のため、客足が鈍るも減少幅は抑えられ、前年比90%位で推移した。業界全体も当社と同様の動きであり、メーカーにより変動幅は大きい。

コロナ禍による労働環境への影響としては営業を始め奨励金部分が給与の比率で大きい部門は前年より奨励給が少なくなり、転職する人も出たが、全体的に飲食、観光の業種に比べれば影響は少ない。また会議、研修はリモートでも可能だが、車両整備は顧客との接遇が必要であり、最近はやや人手不足である。

コロナ禍を除き、令和3年の経済・経営環境で最も関心をもっていることは、SDGs(持続可能な開発目標)への取り組みに対し企業と社会の関心が高まっていること、自動車産業も電動化への取り組みが急務となっていること、今後自動車メーカー同士の競争にGAFA等との競争が加わること、コネクティッドカー等への取り組み等でメーカーの再編等が考えられ、今後は業界の枠を超えた協力が必要であることが挙げられる。

令和3年に小山市の施策で期待することは、コロナの影響による売上減少に対する支援の拡充、コロナ対策に投じた費用の支援、コロナ禍の影響の為に売上、利益減少に対する市税の緩和、ハイブリッド車、電気自動車の購入補助金、中小企業の業種変更やリモートへの補助金の拡充である。

令和2年度はコロナの影響が当初予想を超え、行動が制限され、販売もリモートやホームページ等の活用への変化を余儀なくされるも高額な買い物のため、最終的には現車確認や試乗が決め手となっている。店舗内の丁寧な対応が不可欠である。小山市及び周辺の自動車販売は緊急事態宣言等により、人の移動や接触等に制限がある以上、コロナ前の水準に戻すには厳しい状況である。車種では電動化の流れでハイブリッド車、電気自動車が多くなり、軽自動車もエコに伴い販売比率が高くなる可能性がある。買い方は所有から使用の流れが進む。

エコカー、電気自動車、ハイブリット車は世界的な電動化の動きもあり、販売の中心になり、特に電気自動車、ハイブリッド車の販売強化が必要である。カーシェアリングに関してはコロナの影響があるうちはカーシェアリングの運営が厳しい状況が続くと考えられる。サブスクリプション等の買い方が今後は大きく販売面に影響すると思われる。

(小売業(スーパーマーケット))

令和元年消費税アップ後、低迷を続けた状況で、令和2年を迎え、その後続く新型コロナの影響により売上はアパレル関連を中心に更にダウンしている。唯一食品関連が前半の数値を確保している。令和3年の景気見通しに大きな変化はなく、後半に期待している。

恒常的に続いた人手不足は緊急事態宣言による営業時間の短縮、集客効果の高い催事等の自粛により一時的とは言え、解消している。

コロナ禍を除き、令和3年の経済・経営環境で最も関心をもっていることは、東京オリンピックの開催(消費需要の動向がどう変わるのか)に関してである。

GoTo 事業は仕組みが良く理解されないままスタートし、現在は停止期間にあり、効果は未定である。

(銀行)

令和2年の状況は、小山市内全金融機関の預金・貸出の伸びが過去にないほど著しく顕著であった。

貸金伸び率は3.1%(通常2%程度)、預金伸び率は9.0%(通常2%程度)である。預貸金ともに顕著に推移した理由は、第1にコロナ融資(3年間無利子・最大40百万円)等国や県からの支援策が寄与しているため、第2に定額給付金(一人当たり100千円)が預貯金に歩留まっているためである。

令和2年度はコロナ融資が大きく寄与し、倒産件数は例年と比べて少なかった。

令和3年の見通しとしては、国や県からの支援にも限界があり、倒産件数及び金額の増加が見込まれるため、銀行決算上引当金を多く計上せざるを得ず、信用コストが悪化し、利益圧縮という流れになりそうである。

コロナ禍の労働環境としては、金融機関にとって在宅勤務には限界がある。人手不足のため昼休み休憩(窓口)体制をとる金融機関が多かった。人手不足のなか、比較的有能な人材(パート職員)が確保できた。

コロナ禍を除き、令和3年の経済・経営環境で最も関心をもっていることは、新しいビジネスチャンス(ビジネスモデル)の台頭に対してである。従来通りの営業あるいはビジネスモデルには限界があり、新たな発想の新たな市場参入者による新たなビジネスモデルが確立されていく必要がある。

令和3年に小山市の施策で期待することは、小山市人口の増加への施策であり、特に、若い方からの小山市に住みたいと選ばれる市を目指してほしい。そのためには雇用の場を設けることが一番大切と考える。

昨年の企業の資金需要の動向としては、コロナ禍の不透明な環境下、手許流動性預金を調達する動きが目立っていたこと、優良企業は低金利かつ長期資金を従来以上に調達していたこと、一方、資金繰りが忙しい企業は、コロナ融資(3年無利子・5年間元金据置可能)を上手に活用していたこと、大型設備投資は抑える傾向にあったことが挙げられる。

今後の見通しとしては、コロナがさらに拡大するようであれば、倒産が増加していくが、コロナ環境に対応できる企業はさらに業績を好調維持できる。つまり、勝ち組と負け組がはっきりとしてくる。

低金利政策下、従来(預貸業務)型の取組みには限界がある。そこで、下記2点を重視していく。

①フィービジネスへの注力強化

- ・事業承継を見据えた M&A 等コンサルティング業務
- ・投資信託や保険等預かり資産業務
- ・上記分野への人材投入強化 等

②経費圧縮

- ・店舗体制見直し
- ・従来のサービス業務見直し
- ・各種手数料新設・変更

(タクシー)

売上は、令和2年8月以降(前年同月比3割減)徐々に人の動きが出てきて、前年同月比2割減まで戻ってきたが、企業による忘年会の自粛などにより令和2年11月、12月共に夜の稼働が激減し、前年同月比3割減となった。年が明け、1月に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言が発出され、大きく景気が落ち込み、令和3年1月、2月共に売上が前年同月比6割減となっている。ワクチン接種により、人の動きが出てきても、コロナ禍での生活様式(テレワーク等)が変化しており、従来前の売上には戻らず8-9割程度となると思われる。

コロナ禍により人の動きが抑制され、利用者が半減し、従来の勤務ダイヤでは乗務員の最低賃金割れとなってしまうため、出勤日数を減らし雇用調整助成金を活用している。

コロナ禍を除き、令和3年の経済・経営環境で最も関心をもっていることはオリンピックの開催動向とカーボンニュートラル政策による車両等設備投資の変化である。

令和3年に小山市の施策で期待することは、街の賑わいの創出、コロナ禍でのイベント復活である。

小山市においては観光名所がほとんどないため、GoToキャンペーンによる売上の増収感はなかったが、出張で小山に来た人がホテルから駅まで地域共通クーポン券で乗車した人が何人かいた。

(住宅産業)

令和2年は、当社・小山支店では前年より売上が伸びており、コロナウイルスの影響は受けていない。全社的にも夏以降、売上は回復しており、小山支店と同様影響は受けていない。令和3年は横ばい、もしくは上向きになると見通している。コロナウイルスが少しは落ち着くこと、現状のお客様の動きから上向きと感じていることが理由として挙げられる。

コロナ禍により労働環境は大きく変化した。WEBの活用により顧客との打ち合わせ、社内会議を行っており、以前では実施していなかった取り組みを実施している。受注が変化していないため、人手不足、人余りはない。

コロナ禍を除き、令和3年の経済・経営環境で最も関心をもっていることは、ESG経営(持続可能な社会の実現を目指し、環境・社会・ガバナンスに配慮した経営)に対する評価がどの程度向上するかである。

令和3年に小山市の施策で期待することは、定住補助金の拡充、区画整理などの都市計画における住環境の整備・開発である。

分譲・持ち家に対する購買意欲は高まっており、賃貸にお住まいの方々が一戸建てを求める動きが活発になっていると感じる。賃家の建設は逆に消極的になっている。

コロナ禍において、都市部から郊外への移住ニーズの高まりが期待されているが、需要が変化している実感はまだない。現状は小山市内で賃貸から一戸建てへのニーズが高まっていることを実感している。今後は移住ニーズが高まると予想している。

(スポーツ事業)

売上・営業利益は、前年比よりかなり数字が落ちている。令和3年度も、厳しい状況は続くと思う。

コロナ禍において経営状況が厳しいため、人件費を抑える目的で、人員の配置やシフトの見直しを行うことで、経費の圧縮をしている。

コロナ禍を除き、令和3年の経済・経営環境で最も関心をもっていることは経済の行く末と、景気が低迷しているが、今後どのような形・スピードで経済が回復し以前のような状況になるのかに関してである。

令和3年に小山市の施策で期待することは補助金の拡充である。

コロナ禍で会員が増えない状況が続いている。年齢層が高いため、退会・休暇する方も増えている。同業者に話を聞いても、会員は増えていない。大手のフィットネスでは、何店舗か閉鎖を検討している。

最近の動向としては、利用者・入会者も少なく、かなり厳しい状況が続く見通しである。

(情報サービス)

令和3年1月、栃木県も緊急事態宣言を受け状況の厳しさが増してきており、小山地域についても景気の落ち込みは避けられず、当面の見通しに明るい材料は見当たらないと思われる。その影響もあり、民需の落ち込みから当初計画の凍結・延期・中止等の問題も生じ、受注量のダウンによる作業量減が発生しているが、辛うじて現状の人手を維持できている状況である。

コロナ禍を除き、令和3年の経済・経営環境で最も関心をもっていることは、世界の政治・経済がどう変化していくのか、米・欧・中国他から目を離せない転換期に、日本経済・経営環境がどのように対応できるのかである。

令和3年に小山市の施策で期待することは、新市長のもと、経済活性化を含め市民や企業が安心して生活し、活動できる環境構築に主眼をおいて頂きたい。

コロナ禍において、一般企業は、日々の本業への集中だけで余裕がなくなってきている。現在の環境下、DX(デジタルトランスフォーメーション)等への新たな投資は厳しい状況にあるのではないかと。本来なら、こういう時期にこそ経営改革のツールとして活用頂くチャンスではあるが、コロナ禍のソフト業界への影響は小さくないと思う。

小山地区と他地区とを比べた際の需要は、コロナ禍の厳しい首都圏の近郊都市として、感染状況の数値等に現れている通りで、他地区との特異点は見い出せないと思う。

(テレビ放送)

令和2年、当社は野木町のエリア拡張事業を行い、新規契約者数の増加により増収、増益で推移した。令和3年は現状程度で推移すると思われる。

コロナ禍が労働環境に与えた影響はなく対応はしなかった。

コロナ禍を除き、令和3年の経済・経営環境で最も関心をもっていることは、各業種で売り上げの減少など経営環境が悪化すると思われ、その影響が当社にも及ぶことが心配である。

令和3年に小山市の施策で期待することは、現在マスコミ等では言われている、今後のコロナワクチンに対する対応である。

コロナ禍以前は各種イベントなどの取材依頼が多かったが、イベントの中止、取材制限が多い。

各業種に渡り売上が減少している、特に当社に広告の多い飲食店の依頼が減少している状況である。

(製造業(鋼材))

弊社の状況は令和2年初めから売上が徐々に後退局面となった。特に自動車関連業界での減産の影響が大きく米中貿易摩擦や中国の景気後退が要因と考えられる。新型コロナの影響は当初はさほど深刻な影響は出なかったが徐々にメーカーの減産が始まり影響が拡大してきた。自動車業界以外も全般的に生産が低迷している。それに伴い弊社も大幅に減収、減益となった。月度レベルでは前年比約40%、年間でも30%程度の減少となった。

令和3年の景気(売上等)の見通しとしては、引き続きコロナの影響は残るものの、自動車業界や半導体関連業種などで生産回復の兆しが見られるようになり、特に年後半にはかなり回復することが期待される。

今回は政府よりいち早く雇用調整助成金の特別措置が始まり弊社でもその適用を受け、従業員の休業に対して給与は100%支給が来ている。しかし社員にとっては平日に休業日が入り外出もままならぬ状況が続くと先行き不安や様々な不安要素が増え精神的に不安を覚えることもあり、その結果として退職者が出ている。

コロナ禍を除き、令和3年の経済・経営環境で最も関心をもっていることとしては、生産が回復している業種業界がある一方、ポストコロナで需要が戻らないのではないかと危惧されるものもあるように感じる。米中関係は依然として懸念される状況なのでそれらの国への輸出にかかわる業種からの受注の減少が懸念事項である。

令和3年に小山市の施策で期待することは、浅野新市長に代わりまだ日が浅く小山市の施策がどうなるかまだわからないが、予算が厳しいと聞いているため工業系の予算が大幅減額にならないかと気にしている。出来れば大きな打撃を受けた企業には助成金や税の軽減措置などをお願いしたい。

コロナ禍のサプライチェーンへの影響は業種的に特になかった。

現状では受注減の影響で人手不足ではないが今後景気回復時の募集ではまた苦勞することが予想される。人材育成は継続的に行っていかなければならず計画を立てて行っている。コロナの影響で昨年はいっさい集合研修が出来ず苦勞した。今後はOJT(職場内訓練)、Off-JT(職場外訓練)を含め行っていく。

(小山商工会議所)

コロナ禍を除き、令和3年の経済・経営環境で最も関心をもっていることは、環境変化に対応した新サービスの開発や業態転換、EC(電子商取引)を活用した販路開拓、令和3年9月に発足するデジタル庁における行政手続きのオンライン化、DX推進による新たなビジネスモデルの展開、テレワークやワーケーションの普及による働き方改革が挙げられる。

令和3年に小山市の施策で期待することは、コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で新製品開発や販路開拓に取り組む企業への小山市独自の補助制度の創設、プレミアム付き商品券のプレミアム率を通常の10%から昨年同様の40%にアップして発行するなど思い切った景気対策の実施である。

当所が実施した市内景気動向調査では、コロナウイルス感染症拡大により製造業、建設業の景況は改善傾向にあるが、小売、サービス、飲食業は景況が悪化している。特に飲食業は、令和3年1月の緊急事態宣言の再発令により売上が減少し、政府による支援策として休業協力金が支給されたが、先行きの不透明感を指摘する声が多く、景気がさらに悪化すれば廃業や倒産に至る事業所が増えることが懸念される。

今後、コロナウイルス感染症が長期化すると全業種において収益が悪化し、資金繰りに影響が出ることが予想され、既往債務の返済猶予や借換えなどが課題となる。

コロナ禍において商工会議所では以下のような取り組みをしている。

- ①コロナウイルス感染症特別相談窓口の開設
- ②専門家による個別相談会の開催
- ③国の緊急支援策の申請支援(持続化補助金、ものづくり補助金、時短営業協力金等)
- ④小規模事業者経営改善貸付資金による資金繰り支援
- ⑤飲食店を支援するクラウドファンディング「みらい飯」の実施
- ⑥コロナウイルス感染症で影響を受けた会員事業所のテイクアウトやデリバリー商品の情報をホームページに掲載して支援している。

「がんばる小山のお店応援サイト おやまドットエールコム」

<https://oyama-yell.com/>

(小笠原教授)

お忙しい中を当研究所のヒアリングにお応えいただき企業の皆様には大変感謝する。新型コロナウイルスの感染拡大は地域経済的な影響が極めて甚大であるということがヒアリングにご協力いただいた企業の皆様の発言から伝わってくるとともに、正直なところ業種別の差の大きさも明らかになったものと思っている。

政府の雇用調整助成金に支えられる企業と影響なく事業を継続できている企業が混在するまだら模様の社会的な不安定さは地域的に大きな動揺を生み出しかねず、適切な領域へ向け更なる公的な支援が求められるが、堅調な企業には是非ともこの機会に現在の事業の更なる拡大や新たな分野への展開、そして新卒を含む人材の採用活動の継続をこの時期に是非とも期待したいところである。また今回の調査では観光・サービス関連の分野についてはその特性的に大変な影響を受けておいでと察するが、コロナ禍の出口が徐々に見通せる段階になってきたことで何とかこの状況を切り抜けその先を検討しながらの持続を願いたい。

技術経営、ビジネスモデルの転換などに直面する企業も多く、白鷗大学としても経営学部、ビジネス開発研究所として地方自治体や経済団体とともに支援できる課題やテーマがあれば是非とも協力することを考えていきたいと思っている。

5. まとめ

最近の日本経済の動きを GDP 速報(2 次速報)でみると、令和 2 年(暦年)の実質 GDP 成長率(平成 27 年暦年連鎖価格)は前年比マイナス 4.8%と、前年令和元年(0.3%)に比べ下落した。一方、四半期別(季節調整済、前期比)でみると、令和 2 年 1~3 月マイナス 0.6%、4~7 月マイナス 8.3%、5~8 月 5.3%、10~12 月 2.8%となった。第 1 四半期、第 2 四半期のマイナスは、それぞれ、令和元年 10 月に消費税を 10%に引き上げた影響と、新型コロナウイルス感染症の流行と緊急事態宣言の発出による影響によるものだろう。第 3 四半期、第 4 四半期は、緊急事態宣言が解除され、感染症の流行や医療体制にもやや落ち着きがみられたことによる反発と見られる。

こうした状況のなか令和 2 年 11 月から 12 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(令和 2 年度第 2 回)」の結果は、本調査開始以来、いくつかの項目で最低水準を記録した「小山市景気動向アンケート調査(令和 2 年度第 1 回)」の結果と比べると、全体的に改善傾向がみられた。しかし、多くの項目で、新型コロナウイルス感染症の流行以前である前年同期の水準までには回復しておらず、依然として厳しい景況感が表れたものとなった。また、今回のアンケート調査は、令和 3 年 1 月に首都圏を中心に再発出された緊急事態宣言以前の状況を反映していることにも留意する必要があるだろう。今回のアンケート調査で追加した「新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響」と合わせて、既存の質問項目での回答を振り返ると、現状での小山市の景気は、人々の移動・行動が制限されたことによって、前回調査から継続して需要が全般的に大きく落ちこんでいる影響が表れていることが観察された。一方で、景気見通しについては、コロナウイルスのワクチンへの期待から、景気回復を見込む予測と、感染再拡大や資金繰りの悪化の懸念から厳しい状況が続く予測に分かれた。

令和 3 年 2 月に実施したヒアリング調査の結果をみると、景気については、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行及び 2 度の緊急事態宣言の影響を受けた企業が多くみられた。具体的には緊急事態宣言による行動制限、移動や接触の制限が続いていることによる消費者の需要の縮小、そうした消費者の需要の状況に対応した企業の需要の落ち込みといった影響が挙げられた。売上で影響を受けなかった企業でも、労働環境や今後の業界の動向、業務内容において影響を受けている。また将来的には売上にも影響が及ぶ可能性があるとのことであった。また、コロナ禍が労働環境に様々な変化をもたらしたことがうかがえた。具体的には、リモートワークの導入が進んでおり、以前には実施していなかった取り組みを実施している、人手不足が一時的とはいえ解消した、比較的有能な人材の確保が可能になった、集合研修ができなかったため今後、行う計画をしている、といった声があった。今後の見通しに対しては厳しい声が多いが、顧客の動き、自動車業界や半導体関連業種などで生産回復の兆しがみられるといった理由から、令和 3 年後半に期待する声もみられた。また、小山市の施策で期待することは、短期的には、コロナ禍に対しての補助の拡充、長期的には、人口増加につながるような市の活性化策が挙げられていた。

以上のように、令和 2 年下半期(7~12 月期)の小山市の景況感をみると、本調査開始以来、リーマン・ショック時に並び最悪期であった令和 2 年上半期に比べ改善はみられたが、新型コロナウイルス感染症流行以前の水準までの回復には至っていない。先行きについては新型コロナウイルス関係では、感染再拡大や、ワクチン接種の進展へ関心が向けられていたほか、新型コロナウイルス関係以外では、SDGs の取り組み、令和 3 年に延期された東京オリンピックが開催されるか、米中関係といったものに関心が向けられていた。特に、中国の新疆ウイグル自治区での人権侵害をめぐり、欧米諸国と中国の間で対立が生まれてお

り、今後経済への波及を含め大きな国際問題へと発展する可能性があるため、今後より一層注視していく必要があるだろう。

(参考資料)

i. 小山市景気動向アンケート調査票(令和2年度第2回)

小山市景気動向アンケート調査 調査票(令和2年度第2回)

(2020年12月現在の状況でお答え下さい。4ページ目までご記入のほどよろしくお願い申し上げます。)

質問1 現在の小山市の景気についての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて2020年下半期(7~12月期)の景気は良いと思いますか、悪いと思いますか。(水準)

- ① 良い ② やや良い ③ どちらともいえない ④ やや悪い ⑤ 悪い

質問2-1 質問1のご回答の理由として、どのような点に着目されましたか。もっとも適当と思われるものを一つ選んでください。「⑥それ以外」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① 小山市の人出の状況 ② お客様や取引先の様子(購買態度など)
③ 物価の動き ④ 雇用の状況 ⑤ 周辺地域の様子
⑥ それ以外()

質問2-2 質問2-1 の回答内容について具体的に説明してください。

質問3 小山市の景気の先行きについての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて、2021年上半期(1~6月期)の景気は、2020年下半期(7~12月期)と比べて良くなると思いますか、悪くなると思いますか。(将来の方向)

- ① 良くなる ② やや良くなる ③ 変わらない ④ やや悪くなる ⑤ 悪くなる

質問4 質問3でそのように回答した理由を教えてください。

質問5 貴店(貴社)の売上げ等からみて、貴業界の小山市における2020年下半期(7~12月期)の需要は季節的な要因を除いて、2020年上半期(1~6月期)にくらべて売上金額で増加したと思いますか。

- ① 増加した ② やや増加した ③ 変わらない ④ やや減少した ⑤ 減少した

質問6-1 質問5でそのように回答された理由として、もっとも適当と思われるものを一つ選んでください。

(家計消費向け取引(B to C)の場合)

- ① 来客数の動き ② 販売量の動き ③ 客単価の動き ④ 販売価格の動き
⑤ お客様の様子 ⑥ 競争相手の様子 ⑦ それ以外()

(企業向け取引(B to B)の場合)

- ① 受注量や販売量の動き ② 受注価格や販売価格の動き ③ 取引先の様子
④ 競争相手の様子 ⑤ それ以外()

質問6-2 質問6-1 の回答内容について具体的に説明してください。

質問7 貴店(貴社)の売上の動き等からみて、貴業界の小山市における2021年上半期(1~6月期)の売上高(生産高)の見通しをお伺いします。2020年下半期(7~12月期)と比べて、季節的要因を除いて、2021年上半期(1~6月期)の売上高(生産高)は増加すると思いますか。(売上高の先行き)

- ① 増加する ② やや増加する ③ 変わらない ④ やや減少する ⑤ 減少する

質問8 質問7でそのように回答した理由を教えてください。

質問9 貴店(貴社)の販売価格の動き等からみて、貴業界の小山市における2021年上半期(1~6月期)の販売価格の見通しをお伺いします。2020年下半期(7~12月期)と比べて、2021年上半期(1~6月期)の販売価格はどうなると思いますか。(価格見通し)

- ① 上昇する ② やや上昇する ③ 変わらない ④ やや低下する ⑤ 低下する

質問10 貴店(貴社)の雇用(従業員)の状況等からみて、貴業界の小山市における2021年上半期(1~6月期)の雇用状況の見通しをお伺いします。2020年下半期(7~12月期)と比べて、2021年上半期(1~6月期)の雇用状況はどうなると思いますか。(雇用見通し)

従業員が

- ① 不足する ② やや不足する ③ 横ばい ④ やや過剰となる ⑤ 過剰となる

質問11 貴店(貴社)あるいは貴業界における資金繰りの状況をお伺いします。貴店(貴社)の2020年下半期(7~12月期)における資金繰りは、2020年上半期(1~6月期)にくらべて改善しましたか、悪化しましたか。

- ① 改善した ② やや改善した ③ どちらともいえない。 ④ やや悪化した ⑤ 悪化した

質問 12 質問 11 でそのように回答した理由をあげてください。(複数回答可)

- ① 売上高の変化 ② 設備資金需要の変化 ③ 仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化
- ④ 人件費の変化 ⑤ 金融機関の貸出態度の変化 ⑥ 金融政策、金利の変化
- ⑦ その他(具体的に:)

質問 13 貴店(貴社)における令和 2 年度の主な従業員の賃金等の状況をお伺いします。(あてはまるものすべてに○、複数回答可)

- ① ベースアップを実施 ② ボーナスの実施 ③ 定期昇給を実施 ④ ボーナスの増額
- ⑤ ボーナス以外の手当の増額 ⑥ 定期給与・ボーナス等の変更なし ⑦ 定期給与の引下げ
- ⑧ ボーナスの減額 ⑨ ボーナス以外の手当の減額 ⑩ その他()

質問 14 質問 13 でそのように回答した具体的内容・理由を記入してください。

質問 15 新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)に関して、2020 年下半期(7~12 月期)には貴社(貴店)、貴業界はどのような影響を受けましたか。

(あてはまるものすべてに○をつけてください、複数回答可)

- ① コロナ禍前に比べ一部商品の仕入が困難なままだ ② 商品の仕入の状況はコロナ禍前に戻った
- ③ コロナ禍前に比べ原材料・部品の入手が困難なままだ ④ 原材料・部品の入手の状況はコロナ禍前に戻った
- ⑤ コロナ禍前に比べ供給能力が増加した ⑥ 供給能力はコロナ禍前の状況に回復した
- ⑦ 供給能力はコロナ禍前の状況に戻っていない ⑧ コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたままだ
- ⑨ コロナ禍前の営業時間に戻った ⑩ コロナ禍前に比べ従業員の勤務に困難が生じたままだ
- ⑪ 従業員の勤務についてコロナ禍前の状態に戻った ⑫ コロナ禍をきっかけにテレワーク等新たな勤務形態を採用し続けている
- ⑬ 勤務形態はコロナ禍前のものに戻った ⑭ コロナ禍前と比べキャッシュレス決済の導入が進んだ
- ⑮ コロナ禍前と比べ業態転換が進んだ ⑯ コロナ禍前に比べ需要全体が減少した
- ⑰ コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した ⑱ 全体的にコロナ禍前の状況に需要がほぼ回復した
- ⑲ コロナ禍前に比べ一部商品の需要が増加した ⑳ コロナ禍前に比べ需要が全体的に回復した
- ㉑ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
- ㉒ その他(具体的に:)

質問 16 質問 15 でそのように回答した具体的内容・理由を記入して下さい。

【フェースシート】

小山市経済動向実態調査以外の目的には一切使用いたしませんので、下記の項目にご記入いただきますようお願い申し上げます。

1. 貴店(貴社)のお名前

2. 貴店(貴社)の業種(小山市にある事業所(店舗)で取り扱っている業種)

3. 貴店(貴社)の従業者数(小山市の事業所(店舗)における従業者)

4. 貴店(貴社)の年間売上げ(小山市の事業所(店舗)における売上げ(概数で結構です))

5. 貴店(貴社)の小山市の店舗(事業所)における売上げのうち、小山市内の企業、消費者からの需要の割合はおよそどのくらいですか。一つ選んで○をつけてください。
①80～100% ②60～79% ③40～59% ④20～39% ⑤0～19%

6. 調査の回答に関する連絡先

ご担当者名:

ご住所:

電話番号:

E-mail:

(お忙しいところご協力どうもありがとうございました。ご回答いただきました方には、次回調査時に今回の調査結果とともに、些少なながらクオカード(1000円)をお送りいたします。)

「小山市経済動向実態調査」

委託元 小山市経済部商業観光課

調査受託 白鷗大学ビジネス開発研究所

電話:0285-20-8900(大学・代表)

0285-20-8125(研究所)

Fax:0285-22-8989

調査担当(西谷、八尾、櫻庭)

ii. 小山市景気動向アンケート調査(令和2年度第2回)の回答一覧

選択回答 質問1~7 (企業番号1~20)

No.	質問1	質問2	質問3	質問5	質問6		質問7
					家計	企業	
1	4	1	4	4	2	1	4
2	2	2	4	4	1,5	-	4
3	5	2	4	3	-	3	3
4	4	5	4	5	1	3	5
5	4	2	3	4	6	3	4
6	5	6	4	2	5	3	5
7	4	1	3	4	2	1	3
8	5	6	5	5	5	1	5
9	4	4	3	3	1	-	3
10	5	6	4	5	1	-	5
11	5	2	5	2	1	3	2
12	4	2	5	5	1	1	5
13	3	1	3	3	-	3	3
14	5	-	4	5	1	4	4
15	3	2	3	3	2	3	3
16	2	2	3	3	-	4	3
17	5	6	2	4	1	1	2
18	4	2	3	3	2,5	3	5
19	5	2	3	2	-	1	4
20	4	2	4	3	2	3	3

選択回答 質問 1~7 (企業番号 21~44)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 5	質問 6		質問 7
					家計	企業	
21	5	2	5	5	1	2	5
22	4	2	2	2	2	-	2
23	3	2	4	3	2	-	4
24	2	1, 5	2	3	-	3	4
25	2	2	3	3	2	-	3
26	4	1	2	5	-	1	2
27	4	2	4	2	5	-	4
28	3	2	3	3	2	1	3
29	5	2, 3	3	4	3	-	4
30	5	1	5	5	-	1	3
31	4	2, 4, 5	4	3	4, 5	-	3
32	4	6	3	4	-	1	3
33	3	2	4	2	2	1	4
34	5	2	3	2	1	-	2
35	5	2	3	4	-	1	2
36	4	2	2	3	5	1	3
37	4	1	3	4	1	-	3
38	4	1, 2	5	5	1, 5	3	4
39	5	1	2	2	2	1	2
40	3	5	4	-	-	-	-
41	4	5	4	5	4	-	4
42	5	2	3	2	1	1	3
43	4	2	4	3	1	1	4
44	4	4	3	4	-	3	3

選択回答 質問 9～15 (企業番号 1～20)

No.	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12	質問 13	質問 15
1	3	4	4	1	1, 2, 3, 8	8, 16
2	3	3	3	1	-	8, 16
3	3	3	3	-	2, 6	10, 14
4	4	2	4	1	8	8, 10
5	4	4	3	3	6	1, 7, 16
6	3	5	2	5	7, 8	10, 12, 16
7	3	3	4	1	8	14, 17
8	5	3	5	1, 7	6	16
9	3	3	3	1	2, 3	13
10	3	5	4	-	9	7
11	3	3	3	-	8	8, 16
12	3	4	5	1	6	17
13	3	3	3	1, 4	6	4, 11, 13
14	4	2	2	1	-	7, 8, 16
15	3	3	3	1	6	7, 10
16	4	2	3	1	1	-
17	3	3	2	1	2, 3	2, 6, 10, 12, 15, 20
18	4	3	3	1	2, 3	13, 21
19	2	3	2	1	3, 4	21
20	3	3	2	1	2, 3	9, 11

選択回答 質問 9～15 (企業番号 21～40)

No.	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12	質問 13	質問 15
21	5	2	4	5	9	16, 17
22	3	-	3	7	10	16
23	3	3	2	5	1, 2	14, 21,22
24	5	3	3	-	-	-
25	3	4	2	1, 5	2, 3	2, 20
26	2	2	4	1	8	2, 4, 6, 10, 16
27	4	3	3	1	6	8
28	3	3	3	-	2, 3	16
29	4	3	3	1, 2, 4	8	8, 16
30	1	1	5	1	1	1, 7, 16, 19
31	4	3	3	2	2, 3	17
32	3	3	3	1	2, 3	12, 17
33	3	3	3	2	2, 3	3
34	3	2	3	1, 4	2, 3, 8	8, 12, 17
35	3	3	5	1	8	16, 22
36	3	3	3	1	2, 3	10, 12, 17
37	3	3	3	-	6	8, 10, 16
38	4	3	3	-	2, 3	17, 22
39	2	3	3	1	8	8, 10, 16
40	-	-	-	-	6	17, 19
41	4	3	2	5, 6	-	1,7,10,14,16
42	3	4	4	1	8	7,10,16
43	3	3	3	1	6	6,8,14,16,17
44	3	3	4	7	8	10,16

記述回答 質問 1、2

No.	質問 1	質問 2-1	質問 2-1 選択肢 6 の回答	質問 2-2
1	4	1		特に飲食店・居酒屋の入りが悪い
2	2	2		車の販売が前年より台数が少ない
3	5	2		決算内容
4	4	5		
5	4	2		お得意先に対する訪問回数が少なくなる。
6	5	6	コロナの影響	コロナの影響で外食や宴会が自粛され、アルコールの消費が大幅に減少したため、売上げが減った。
7	4	1		12月現在で第三波の影響
8	5	6	コロナ	コロナの影響で全てにおいて悪化
9	4	4		求人数が減少しているように伺えるので、全体的に雇用している会社が少なく、景気は良いとは思えないため。
10	5	6	コロナの影響か、客足が減少	2-1 のとおり
11	5	2		コロナ禍による会食の自粛要請の為、人出が少ない。
12	4	2		
13	3	1		以前より空いているところが多い
14	5	-		
15	3	2		
16	2	2		
17	5	6	新型コロナウイルスの影響	新型コロナウイルスの影響で様々な業種で自粛の動きにより売上げが減少しているから。
18	4	2		
19	5	2		取引先との会話で悪いと話が出てくる。
20	4	2		新型コロナウイルス感染症の影響
21	5	2		
22	4	2		コロナの影響で各種のスポーツ大会が中止になっている。
23	3	2		

24	2	1, 5		飲食店に関して、春・夏のコロナ自粛に比べると、秋以降は去年レベルに戻っている為
25	2	2		コロナ禍の中で主な取引先がスーパーマーケット(食品販売が主)の為に内食需要を反映し一時的な効果が出ています。
26	4	1		
27	4	2		
28	3	2		コロナウイルスの影響がまだ続くと思われるため。
29	5	2, 3		コロナの影響もあり売上減
30	5	1		人の動きが少ない
31	4	2, 4, 5		来客も少なく(コロナ禍)購買意欲がなくなっているような気がします。 仕事(雇用)も不安定なことが原因の1つかも。
32	4	6	新型コロナウイルスの影響	レジャーや外食(飲食)自粛による家庭内支出減
33	3	2		客先の設備投資抑制が懸念される
34	5	2		テレワーク生活様式の変化、車移動の主流化
35	5	2		仕事量が減っている。(依頼を受けていたのが10だとすれば、5~7程度に減った。)
36	4	2		コロナ禍の影響
37	4	1		自粛ムードで外出しない。
38	4	1, 2		人出が減っている。設備投資が少ない。
39	5	1		コロナによる外出自粛要請
40	3	5		あまり変わっていないように感じているので
41	4	5		お店の中のお客さんが入っているところが少ない。中心通りでも道を歩いている人が少ない。
42	5	2		コロナ禍の中において、商店や企業の休業・事業縮小が目立ちます。
43	4	2		来店客数減
44	4	4		

記述回答 質問 3、4

No.	質問 3	質問 4
1	4	
2	4	コロナで人の移動がすくなくなるから
3	4	これから資金繰りが厳しくなる企業が増加してくる
4	4	
5	3	仕事の内容(業種)により上下があると思われる。
6	4	コロナのワクチンが完成し、不安がなくなり、日常が戻れば良くなるし、ワクチンが遅くなれば更に悪化する。
7	3	第3波の影響とワクチン次第だと思う。
8	5	
9	3	コロナウイルスの影響が改善されないと考えたため
10	4	問 2-1 のとおり
11	5	コロナウイルスの感染拡大により、会食の自粛
12	5	
13	3	先が見えない為
14	4	
15	3	
16	3	
17	2	新型コロナウイルスの感染が縮小すると思うから。
18	3	
19	3	新型コロナウイルスの影響で先が見えない。
20	4	新型コロナウイルス感染症の影響
21	5	乗客の減少が大である。
22	2	コロナが 3 月位で良い方向になれば、各種の団体が動いてくれると期待しています。
23	4	
24	2	2021 年上期には日本全国民にワクチンが回り、反動で V 字回復が見込まれるから。
25	3	コロナ禍は直ぐに収まる気配がない。
26	2	コロナの終息または沈静が前提
27	4	コロナの影響次第で変わる
28	3	コロナウイルスの影響がまだ続くと思われるため。
29	3	ウイルスの広がりが落ちつけば回復傾向になると予想。
30	5	需要はあっても供給が足りない
31	4	コロナ禍にあり、生活に余裕がみられない。
32	3	コロナ禍の状況が不透明

33	4	コロナ禍が終息しない限り、先行きの見通しが見つからないと思う。
34	3	GoTo の再開も、ワクチンが稼働し始めるまでは変わらない。
35	3	コロナで減っていた仕事量が、増えてくることを想定しているが、減った働き方が戻らないのではないか？ということを懸念している。
36	2	コロナ禍の収束を期待(現状よりは...)
37	3	コロナウイルスが収まらないと無理
38	5	良くなる材料が見当たらない。
39	2	コロナワクチン接種によるコロナの収束
40	4	コロナで収縮する
41	4	歩いている人や来客数の減少
42	3	第3波が訪れており、この影響はかなり続くと思われます。
43	4	新型コロナの影響により外出減
44	3	

記述回答 質問 5、6

No.	質問 5	質問 6-1		質問 6-1 その他の回答	質問 6-2
		家計	企業		
1	4	2	1		良い材料が見つからない
2	4	1, 5	-		
3	3	-	3		
4	5	1	3		
5	4	6	3		契約が解約されたり、中止になる。
6	2	5	3		1-6 月期が悪すぎた。
7	4	2	1		BtoB も BtoC もまとまった注文が入らなくなった
8	5	5	1		
9	3	1	-		コロナの状況と一緒に、来客も変わらないと感じているため。
10	5	1	-		
11	2	1	3		コロナ禍における会食の自粛
12	5	1	1		
13	3	-	3		
14	5	1	4		
15	3	2	3		
16	3	-	4		
17	4	1	1		新型コロナウイルスの影響により、来客数も売上げも減少している。
18	3	2, 5	3		
19	2	-	1		7~9 月に出荷量が増えた。
20	3	2	3		
21	5	1	2		
22	2	2	-		
23	3	2	-		
24	3	-	3		コロナの影響で設備投資が消極的になっているため。
25	3	2	-		
26	5	-	1		コロナの影響がまだまだ強く仕事量がない
27	2	5	-		コロナで活動できなかった。4 月~5 月よりは活動できたので。

28	3	2	1		イベントの中止などにより販売量が 増えなかった。
29	4	3	-		売上減のため
30	5	-	1		業界の新年度スタートである9月 以降、製品が供給されず、今後も 見通しが不明のため。
31	3	4, 5	-		不動産価格が下がっている為。
32	4	-	1		生産数量の減少
33	2	2	1		
34	2	1	-		上期は緊急事態宣言による休業な どあったため(下期はGoToにより 若干うごきあり)
35	4	-	1		実際のコロナ禍による影響で、1~ 6月は月平均同月前年比20%売 上げ減、7~12月で25%減となっ ている為。
36	3	5	1		
37	4	1	-		
38	5	1, 5	3		来客数の減少
39	2	2	1		GoToトラベルキャンペーン・GoTo イートキャンペーン・GoTo イベント の実施
40	-	-	-		
41	5	4	-		
42	2	1	1		
43	3	1	1		取引金額・売上減にともない大きく 減
44	4	-	3		

記述回答 質問 7、8

No.	質問 7	質問 8
1	4	全てにおいて、動きが悪いように思います。
2	4	
3	3	
4	5	
5	4	
6	5	すべてコロナ次第
7	3	今の生活が続くと思うから。
8	5	
9	3	6-2 の答えと一緒にです。
10	5	私が高齢になった為かも
11	2	コロナウイルスの感染が落ち着いてくる
12	5	
13	3	
14	4	
15	3	
16	3	
17	2	新型コロナウイルスの影響で在宅ワークが増加し、都心から郊外に住まいを求め方が増えてくる。
18	5	
19	4	受注量が減ると見込まれている。
20	3	
21	5	人の動きの減少
22	2	コロナの状態がすべてです。
23	4	
24	4	小山市内の設備投資が減少傾向にあるため
25	3	
26	2	質問 4 と同じく、コロナの動向次第で収まる傾向ならプラス
27	4	
28	3	コロナウイルスの影響がまだ続くと思われるため。
29	4	2-2 と同じ
30	3	引き続き、今の混迷した社会状況が売り上げた影響を与え続ける。
31	3	不動産価格はそれほど変わらない気がする。ただ、お客様の購買意欲に変化があると違って来るかもしれません。
32	3	コロナ禍の状況が不透明
33	4	発注(受注)が減少することが想定されるため

34	2	競合の動きより
35	2	今の動きから予測は難しいが、希望としては増加してほしい。
36	3	
37	3	従業員の高齢化なども
38	4	需要の減少
39	2	コロナワクチン接種によるコロナ収束、運賃改定による増収率 10%
40	-	
41	4	買い物客のお出かけの自粛による
42	3	GOTOトラベルが継続しなければ落ち込むと思われます。
43	4	新型コロナの影響
44	3	

記述回答 質問 11、12

No.	質問 11	質問 12	回答 12 その他の回答
1	4	1	
2	3	1	
3	3	-	
4	4	1	
5	3	3	
6	2	5	
7	4	1	
8	5	1, 7	コロナ
9	3	1	
10	4	-	
11	3	-	
12	5	1	
13	3	1, 4	
14	2	1	
15	3	1	
16	3	1	
17	2	1	
18	3	1	
19	2	1	
20	2	1	
21	4	5	
22	3	7	持続化給付金と家賃の補助費、助かっています。
23	2	5	
24	3	-	
25	2	1, 5	
26	4	1	
27	3	1	
28	3	-	
29	3	1, 2, 4	
30	5	1	
31	3	2	
32	3	1	
33	3	2	
34	3	1, 4	
35	5	1	

36	3	1	
37	3	-	
38	3	-	
39	3	1	
40	-	-	
41	2	5, 6	
42	4	1	
43	3	1	
44	4	7	

記述回答 質問 13、14

No.	質問 13	質問 13 その他の回答	質問 14
1	1, 2, 3, 8		生産性よりもそれ以外の悪因の方が利益を下げています。
2	-		
3	2, 6		
4	8		
5	6		業績は良くありませんが、社員の生活も考え無理(銀行借入)しても、今迄通りの(賃金・賞与)を支払いました。
6	7, 8		雇用を維持するためには上記のような施策をするしかない。
7	8		売上高が減少したため
8	6		
9	2, 3		昨年と比較し、金額(ボーナス)は下がっているが、他は変わらない。
10	9		
11	8		コロナ禍の影響によって、雇用調整を実施している為、社員の休業が多くボーナスを減額した。
12	6		
13	6		
14	-		
15	6		
16	1		
17	2, 3		売上げは伸びているが例年通りの動きだったため。
18	2, 3		
19	3, 4		ボーナスは利益率で決まっているため。
20	2, 3		
21	9		売上の減少にある
22	10	ボーナスなし	1人親方です。
23	1, 2		
24	-		
25	2, 3		資金繰りが良くなった。利益の分配。
26	8		収益が取れない為
27	6		

28	2, 3		
29	8		会社資金繰りの安定の為
30	1		売上は落ちているが、従業員の生活も大事。
31	2, 3		例年通りに対処していきたいと思う。(社員数も少ないため)
32	2, 3		賃金制度上による
33	2, 3		特になし
34	2, 3, 8		
35	8		赤字なので
36	2, 3		
37	6		
38	2, 3		雇用の維持、モチベーション確保
39	8		コロナにより営業収入が約 4 割減少
40	6		他者とのバランスを維持する
41	0		現状維持
42	8		2019 年から 50 万減額
43	6		賃金について、いずれも増減の幅少ない
44	8		業績不振による

記述回答 質問 15、16

No.	質問 15	質問 15 その他の回答	質問 16
1	8, 16		コロナ禍前の状況には、まだまだ回復していない。
2	8, 16		
3	10, 14		
4	8, 10		
5	1, 7, 16		
6	10, 12, 16		コロナで大きく需要が減退したことに つきる。
7	14, 17		大口の注文が入らなくなった
8	16		1 日も早くコロナの状況が少しでも良くなり、以前の状況に戻ってほしい。
9	13		結果的に大きく変わった事はないが、会議や研修などオンライン対応で取り組むことが出来ている。
10	7		
11	8, 16		・会食の自粛要請を受けたお客様の行動 ・コロナウイルス感染防止の為、ソーシャルディスタンスを実施し、席数減少をしている。
12	17		
13	4, 11, 13		
14	7, 8, 16		
15	7, 10		
16	-		
17	2, 6, 10, 12, 15, 20		・働き方は変化し、事務所の在籍率を下げ、会議も WEB になった。 ・在宅ワークが増加したため、郊外である小山市に住む需要があり、不動産事業の売上げが伸びている。
18	13, 21		
19	21		受注物件がコロナの影響なく予定通り動いていた。
20	9, 11		
21	16, 17		コロナのワクチンの体制が確立されていない為か。

22	16		各種団体等の行事がなくなり、一般商品やトロフィ、カップ、メダルなどの注文がない。
23	14, 21, 22	各種プレミアム券の活用・効果があり大変ありがたい。	
24	-		
25	2, 20		
26	2, 4, 6, 10, 16		顧客先の需要はほとんど回復していない
27	8		
28	16		イベントの中止により、販売場所が減少した。
29	8, 16		客数・売上ともに大幅に減少しているため
30	1, 7, 16, 19		普段なら半年待ちの注文も受け入れているが、今期は先行き不透明なため、受注をお断りしている。
31	17		不動産業の為、来客する一般のお客様は少なくなったように感じるが、不動産の動きはそれほど変わらないような気がします。
32	12, 17		
33	3		
34	8, 12, 17		
35	16, 22	元々コロナ前から従業員を少なくしているので、勤務体制は変化はない。	客からの依頼がコロナ前と比べて減っている為、売上げが減少している。主な輸送品として資材関連が多いが、コロナ禍に伴い、工場などで生産調整を行っている為、輸送品そのものが減っているのではないかと推察する。
36	10, 12, 17		
37	8, 10, 16		
38	17, 22	集合研修、集合会議の減少	設備投資の減少
39	8, 10, 16		コロナ禍によりイベント・忘年会・集会の自粛により人の移動がなくなった。
40	17, 19		
41	1, 7, 10, 14, 16		商品の材料等で外国からの入手困難により
42	7, 10, 16		

43	6,8,14,16,17		<ul style="list-style-type: none"> ・営業時間: 専門店を中心に一部営業時間短縮 ・キャッシュレス決済は大幅増 ・売上は大きく減
44	10,16		

iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)

質問 1 小山市の景気の現状(水準)

				良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回	令和	2年	7~12月	0.0	9.1	13.6	43.2	34.1	0.0	24.4
前回		2年	1~6月	0.0	0.0	6.5	28.3	65.2	0.0	10.3
前々回		元年	7~12月	0.0	11.8	35.3	45.1	5.9	2.0	38.5
第34回		元年	1~6月	2.2	10.9	47.8	37.0	0.0	2.2	44.5
第33回	平成	30年	7~12月	2.2	24.4	55.6	13.3	4.4	0.0	51.6
第32回		30年	1~6月	0.0	31.6	55.3	10.5	0.0	2.6	55.4
第31回		29年	7~12月	0.0	32.6	58.1	4.7	4.7	0.0	54.7
第30回		29年	1~6月	0.0	17.0	59.6	19.1	4.3	0.0	47.3
第29回		28年	7~12月	0.0	14.6	47.9	31.3	6.3	0.0	42.7
第28回		28年	1~6月	0.0	9.3	64.8	20.4	5.6	0.0	44.5
第27回		27年	7~12月	0.0	21.7	56.5	21.7	0.0	0.0	50.0
第26回		27年	1~6月	0.0	22.4	49.0	20.4	8.2	0.0	46.4
第25回		26年	7~12月	0.0	10.9	50.0	32.6	6.5	0.0	42.7
第24回		26年	1~6月	2.0	16.0	54.0	16.0	8.0	4.0	46.9
第23回		25年	7~12月	2.0	28.6	49.0	16.3	4.1	0.0	52.0
第22回		25年	1~6月	0.0	18.5	48.1	31.5	1.9	0.0	45.8
第21回		24年	7~12月	0.0	4.1	44.9	34.7	16.3	0.0	34.2
第20回		24年	1~6月	0.0	14.6	29.2	43.7	12.5	0.0	36.7
第19回		23年	7~12月	1.8	9.2	25.5	45.5	18.0	0.0	32.8
第18回		23年	1~6月	0.0	1.9	15.4	50.0	30.8	1.9	22.0
第17回		22年	7~12月	0.0	6.7	33.3	40.0	20.0	0.0	31.7
第16回		22年	1~6月	0.0	10.4	27.1	39.6	22.9	0.0	31.3
第15回		21年	7~12月	0.0	2.1	4.2	41.7	52.0	0.0	14.1
第14回		21年	1~6月	0.0	1.8	1.8	38.6	57.8	0.0	11.9
第13回		20年	7~12月	0.0	0.0	4.3	36.2	59.5	0.0	11.2
第12回		20年	1~6月	0.0	2.2	13.3	66.7	17.8	0.0	25.0
第11回		19年	7~12月	0.0	0.0	38.3	53.2	8.5	0.0	32.5
第10回		19年	1~6月	0.0	23.1	45.2	27.9	3.8	0.0	46.9
第9回		18年	7~12月	0.0	20.8	35.4	33.3	10.5	0.0	41.6
第8回		18年	1~6月	0.0	25.5	53.2	14.9	6.4	0.0	49.5
第7回		17年	7~12月	0.0	28.9	44.4	22.2	4.5	0.0	49.4

第6回	17年	1~6月	0.0	14.6	29.3	51.0	5.1	0.0	38.4
第5回	16年	7~12月	0.0	12.5	27.5	42.5	17.5	0.0	33.8
第4回	16年	1~6月	0.0	16.7	38.1	33.3	11.9	0.0	39.9
第3回	15年	7~12月	0.0	12.0	18.0	40.0	30.0	0.0	28.0
第2回	15年	1~6月	1.6	0.0	16.4	44.3	37.7	0.0	20.9
初回	14年	7~12月	0.0	1.2	7.4	37.0	54.4	0.0	13.9

質問3 小山市の景気の先行き(来半期見通し)

見通し対象時期				良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回	令和	3年	1~6月	0.0	13.6	38.6	34.1	13.6	0.0	38.1
前回		2年	7~12月	6.5	23.9	28.3	17.4	19.6	4.3	44.9
前々回		2年	1~6月	0.0	15.7	56.9	25.5	0.0	2.0	47.6
第34回		元年	7~12月	2.2	10.9	54.3	28.3	2.2	2.2	45.6
第33回	平成	元年	1~6月	0.0	31.1	57.8	11.1	0.0	0.0	55.0
第32回		30年	7~12月	2.6	15.8	68.4	13.2	0.0	0.0	52.0
第31回		30年	1~6月	0.0	39.5	53.5	7.0	0.0	0.0	58.1
第30回		29年	7~12月	0.0	19.1	63.8	14.9	2.1	0.0	50.0
第29回		29年	1~6月	0.0	24.5	61.2	12.2	2.0	0.0	52.0
第28回		28年	7~12月	1.9	11.1	53.7	29.6	3.7	0.0	44.5
第27回		28年	1~6月	0.0	21.7	60.9	17.4	0.0	0.0	51.1
第26回		27年	7~12月	0.0	30.6	55.1	12.3	2.0	0.0	53.6
第25回		27年	1~6月	0.0	26.1	45.7	21.7	4.3	2.2	48.9
第24回		26年	7~12月	0.0	24.0	46.0	26.0	4.0	0.0	47.5
第23回		26年	1~6月	4.1	28.6	42.9	22.4	2.0	0.0	52.6
第22回		25年	7~12月	1.9	37.0	50.0	7.4	3.7	0.0	56.5
第21回		25年	1~6月	2.0	36.7	42.9	14.3	4.1	0.0	54.6
第20回		24年	7~12月	0.0	20.8	43.8	27.1	8.3	0.0	44.3
第19回		24年	1~6月	0.0	16.4	47.3	27.3	7.3	1.7	43.6
第18回		23年	7~12月	3.8	21.2	38.5	23.1	13.4	0.0	44.7
第17回		23年	1~6月	0.0	6.7	64.4	24.4	4.5	0.0	43.3
第16回		22年	7~12月	2.1	29.2	52.1	6.3	8.3	2.0	52.7
第15回		22年	1~6月	0.0	8.3	37.5	33.3	20.9	0.0	33.3
第14回		21年	7~12月	1.8	17.5	36.8	27.2	14.9	1.8	40.9
第13回		21年	1~6月	0.0	0.0	10.6	12.8	74.5	2.1	8.7
第12回		20年	7~12月	0.0	2.2	13.3	68.9	15.6	0.0	25.5
第11回		20年	1~6月	0.0	8.5	42.6	42.6	4.3	2.0	39.1
第10回		19年	7~12月	1.9	19.2	58.7	20.2	0.0	0.0	50.7
第9回		19年	1~6月	2.1	25.0	58.3	10.4	4.2	0.0	52.6
第8回		18年	7~12月	0.0	31.9	51.1	17.0	0.0	0.0	53.7
第7回		18年	1~6月	2.2	51.1	40.0	6.7	0.0	0.0	62.2
第6回		17年	7~12月	0.0	17.1	48.8	26.8	7.3	0.0	43.9
第5回		17年	1~6月	0.0	9.8	41.5	43.9	4.8	0.0	39.1
第4回		16年	7~12月	0.0	33.3	50.0	11.1	5.6	0.0	52.8

第3回	16年	1~6月	0.0	18.0	32.0	34.0	16.0	0.0	38.0
第2回	15年	7~12月	1.6	3.3	47.5	32.8	14.8	0.0	36.0
初回	15年	1~6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問5 業界の小山市における売上 (売上金額の増減)

				増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	令和	2年	7~12月	0.0	20.5	31.8	22.7	22.7	2.3	37.8
前回		2年	1~6月	2.2	8.7	10.9	32.6	45.7	0.0	22.3
前々回		元年	7~12月	0.0	13.7	35.3	43.1	3.9	3.9	40.3
第34回		元年	1~6月	4.3	15.2	39.1	30.4	8.7	2.2	43.8
第33回	平成	30年	7~12月	4.4	22.2	48.9	20.0	2.2	2.2	51.6
第32回		30年	1~6月	0.0	23.7	50.0	23.7	2.6	0.0	48.7
第31回		29年	7~12月	2.3	25.6	51.2	16.3	4.7	0.0	51.2
第30回		29年	1~6月	2.1	14.9	55.3	25.5	2.1	0.0	47.3
第29回		28年	7~12月	0.0	10.2	59.2	28.6	2.0	0.0	45.4
第28回		28年	1~6月	0.0	20.4	44.4	24.1	11.1	0.0	44.5
第27回		27年	7~12月	0.0	23.9	50.0	21.7	4.3	0.0	49.4
第26回		27年	1~6月	2.0	16.3	47.0	26.5	6.1	2.0	45.4
第25回		26年	7~12月	2.2	10.9	47.8	32.6	6.5	0.0	43.3
第24回		26年	1~6月	2.0	22.0	30.0	30.0	14.0	2.0	41.8
第23回		25年	7~12月	8.2	30.6	36.7	16.3	8.2	0.0	53.6
第22回		25年	1~6月	1.9	18.5	37.0	37.0	3.7	1.9	44.4
第21回		24年	7~12月	0.0	10.2	36.7	30.6	20.4	2.1	34.3
第20回		24年	1~6月	2.1	20.8	33.3	29.2	14.6	0.0	42.4
第19回		23年	7~12月	7.3	27.3	18.2	29.1	16.3	1.8	45.0
第18回		23年	1~6月	0.0	3.8	17.3	46.2	30.8	1.9	23.5
第17回		22年	7~12月	4.4	20.0	42.2	24.4	9.0	0.0	46.6
第16回		22年	1~6月	2.1	20.8	33.3	27.1	14.6	2.1	42.0
第15回		21年	7~12月	2.1	4.2	29.2	39.6	24.9	0.0	29.8
第14回		21年	1~6月	1.8	3.5	10.5	49.1	33.3	1.8	22.4
第13回		20年	7~12月	0.0	0.0	14.9	42.6	38.2	4.3	18.9
第12回		20年	1~6月	0.0	6.7	26.7	46.7	19.9	0.0	30.1
第11回		19年	7~12月	0.0	6.4	40.4	40.4	12.8	0.0	35.1
第10回		19年	1~6月	1.9	17.3	36.5	36.5	3.9	3.9	43.9
第9回		18年	7~12月	4.2	18.8	41.7	25.0	8.2	2.1	46.4
第8回		18年	1~6月	0.0	34.0	46.8	14.9	4.3	0.0	52.6
第7回		17年	7~12月	2.2	40.0	28.9	20.0	6.7	2.2	52.8
第6回		17年	1~6月	0.0	19.5	31.7	41.5	7.3	0.0	41.5
第5回		16年	7~12月	2.5	15.0	35.0	30.0	17.5	0.0	38.8
第4回		16年	1~6月	2.8	19.4	30.6	38.9	8.3	0.0	42.4

第3回	15年	7~12月	4.0	14.0	28.0	38.0	14.0	2.0	38.8
第2回	15年	1~6月	3.4	11.9	30.5	39.0	15.3	0.0	37.3
初回	14年	7~12月	2.5	8.6	21.0	28.4	37.0	2.5	27.2

質問 7 業界の小山市の売上高見通し(来半期の見通し)

見通し対象時期				増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	令和	3年	1~6月	0.0	15.9	36.4	29.5	15.9	2.3	38.4
前回		2年	7~12月	2.2	17.4	28.3	17.4	30.4	4.3	35.2
前々回		2年	1~6月	0.0	13.7	61.8	18.6	0.0	5.9	48.7
第34回		元年	7~12月	2.2	21.7	38.0	29.3	4.3	4.3	46.8
第33回		元年	1~6月	2.2	24.4	57.8	15.6	0.0	0.0	53.3
第32回	平成	30年	7~12月	5.3	15.8	63.2	15.8	0.0	0.0	52.7
第31回		30年	1~6月	0.0	30.2	53.5	14.0	2.3	0.0	52.9
第30回		29年	7~12月	0.0	10.6	66.0	19.1	4.3	0.0	45.7
第29回		29年	1~6月	0.0	18.4	61.2	18.4	2.0	0.0	49.0
第28回		28年	7~12月	5.6	22.2	44.4	22.2	5.6	0.0	50.0
第27回		28年	1~6月	0.0	17.4	50.0	28.3	2.2	0.0	45.1
第26回		27年	7~12月	0.0	18.4	55.1	24.5	2.0	0.0	47.5
第25回		27年	1~6月	0.0	23.9	43.5	23.9	6.5	2.2	47.4
第24回		26年	7~12月	2.0	18.0	44.0	28.0	6.0	2.0	45.4
第23回		26年	1~6月	2.0	26.5	44.9	16.3	10.2	0.0	48.4
第22回		25年	7~12月	1.9	33.3	48.1	9.3	5.5	1.9	54.3
第21回		25年	1~6月	2.0	32.7	34.7	18.4	10.2	2.0	49.5
第20回		24年	7~12月	0.0	16.7	39.6	27.1	14.5	2.1	39.9
第19回		24年	1~6月	0.0	18.2	50.9	23.6	7.3	0.0	45.0
第18回		23年	7~12月	3.8	13.5	40.4	28.8	11.6	1.9	42.1
第17回		23年	1~6月	4.4	15.6	57.8	17.8	4.4	0.0	49.5
第16回		22年	7~12月	0.0	27.1	47.9	10.4	10.4	4.2	48.9
第15回		22年	1~6月	0.0	10.4	39.6	31.3	18.7	0.0	35.4
第14回		21年	7~12月	1.8	17.5	31.6	35.1	12.2	1.8	40.2
第13回		21年	1~6月	0.0	2.1	14.9	19.1	59.6	4.3	14.4
第12回		20年	7~12月	0.0	4.4	24.4	53.3	17.9	0.0	28.8
第11回		20年	1~6月	0.0	10.6	44.7	38.3	6.4	0.0	39.9
第10回		19年	7~12月	1.9	23.1	57.7	13.5	0.0	3.8	53.5
第9回		19年	1~6月	2.1	29.2	39.6	16.7	6.2	6.2	51.2
第8回		18年	7~12月	2.1	21.3	59.6	10.6	4.3	2.1	51.6
第7回		18年	1~6月	0.0	35.6	42.2	13.3	4.5	4.4	53.5
第6回		17年	7~12月	0.0	22.0	51.2	26.8	0.0	0.0	48.8
第5回		17年	1~6月	2.5	17.5	27.5	40.0	10.0	2.5	40.4
第4回		16年	7~12月	0.0	19.4	58.3	13.9	2.8	5.6	50.0

第3回	16年	1~6月	2.0	18.0	34.0	30.0	12.0	4.0	41.7
第2回	15年	7~12月	0.0	10.0	43.3	31.7	15.0	0.0	37.1
初回	15年	1~6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問9 来半期の販売価格見通し

見通し対象時期				上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回	令和	3年	1～6月	2.3	6.8	59.1	22.7	6.8	2.3	43.6
前回		2年	7～12月	0.0	6.5	56.5	19.6	17.4	0.0	38.0
前々回		2年	1～6月	0.0	19.6	55.9	18.6	0.0	5.9	50.3
第34回		元年	7～12月	2.2	17.4	52.2	23.9	0.0	4.3	49.5
第33回		元年	1～6月	0.0	13.3	71.1	13.3	13.3	0.0	48.9
第32回	平成	30年	7～12月	0.0	10.5	73.7	13.2	0.0	2.6	49.3
第31回		30年	1～6月	0.0	18.6	69.8	11.6	0.0	0.0	51.8
第30回		29年	7～12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第29回		29年	1～6月	0.0	21.3	61.7	10.6	2.1	4.3	51.7
第28回		28年	7～12月	0.0	9.3	64.8	18.5	3.7	3.7	45.7
第27回		28年	1～6月	2.2	13.0	63.0	19.6	2.2	0.0	48.4
第26回		27年	7～12月	0.0	18.4	65.3	14.3	0.0	2.0	51.0
第25回		27年	1～6月	0.0	22.9	58.3	12.5	4.2	2.1	50.5
第24回		26年	7～12月	2.0	20.0	62.0	12.0	2.0	2.0	52.0
第23回		26年	1～6月	4.1	22.4	47.0	20.4	4.1	2.0	50.5
第22回		25年	7～12月	0.0	25.9	51.9	14.8	1.8	5.6	52.0
第21回		25年	1～6月	2.0	16.3	51.0	22.5	4.1	4.1	46.3
第20回		24年	7～12月	0.0	10.4	47.9	35.4	6.3	0.0	40.6
第19回		24年	1～6月	0.0	9.1	50.9	30.9	5.5	3.6	41.5
第18回		23年	7～12月	0.0	7.7	46.2	36.5	5.8	3.8	39.5
第17回		23年	1～6月	0.0	11.1	51.1	35.6	2.2	0.0	42.8
第16回		22年	7～12月	0.0	12.5	54.2	31.3	2.0	0.0	44.3
第15回		22年	1～6月	0.0	4.2	39.6	41.7	14.5	0.0	33.4
第14回		21年	7～12月	1.8	10.5	43.9	29.8	10.5	3.5	40.5
第13回		21年	1～6月	0.0	4.3	23.4	40.4	29.8	2.1	25.6
第12回		20年	7～12月	4.4	17.8	25.6	43.3	6.7	2.2	41.4
第11回		20年	1～6月	2.1	16.0	43.6	29.8	4.2	4.3	45.3
第10回		19年	7～12月	1.9	17.3	50.0	26.9	2.0	1.9	47.5
第9回		19年	1～6月	2.1	18.8	54.2	16.7	4.1	4.1	49.6
第8回		18年	7～12月	0.0	25.5	46.8	21.3	2.1	4.3	50.0
第7回		18年	1～6月	0.0	26.7	46.7	20.0	4.4	2.2	49.5
第6回		17年	7～12月	0.0	14.6	48.8	29.3	0.0	7.3	46.0
第5回		17年	1～6月	0.0	8.1	45.9	40.5	5.5	0.0	39.2
第4回		16年	7～12月	0.0	8.3	61.1	22.2	5.6	2.8	43.5

第3回	16年	1~6月	0.0	12.0	38.0	40.0	6.0	4.0	38.8
第2回	15年	7~12月	0.0	8.6	32.8	48.3	10.3	0.0	34.9

(注) 販売価格見通しは第2回から実施

質問 10 来半期の雇用見通し

見通し対象時期				不足する	やや不足	横ばい	やや過剰	過剰	無回答	DI
今回	令和	3年	1～6月	2.3	13.6	63.6	11.4	4.5	4.5	49.4
前回		2年	7～12月	0.0	6.5	65.2	19.6	8.7	0.0	42.4
前々回		2年	1～6月	9.8	21.6	56.9	5.9	0.0	5.9	59.4
第34回		元年	7～12月	4.3	23.9	63.0	4.3	0.0	4.3	57.3
第33回		元年	1～6月	13.3	35.6	46.7	0.0	2.2	2.2	64.8
第32回	平成	30年	7～12月	2.6	21.1	65.8	7.9	0.0	2.6	54.7
第31回		30年	1～6月	7.0	30.2	60.5	2.3	0.0	0.0	60.5
第30回		29年	7～12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第29回		29年	1～6月	10.6	34.0	53.2	2.1	0.0	0.0	65.7
第28回		28年	7～12月	3.7	18.5	70.4	1.9	1.9	3.7	55.3
第27回		28年	1～6月	0.0	26.2	64.3	7.1	2.4	0.0	53.6
第26回		27年	7～12月	6.1	22.5	65.3	4.1	0.0	2.0	57.8
第25回		27年	1～6月	8.3	33.3	54.2	2.1	2.1	0.0	62.3
第24回		26年	7～12月	0.0	28.6	67.4	2.0	2.0	0.0	55.7
第23回		26年	1～6月	2.0	26.5	59.2	8.2	0.0	4.1	55.8
第22回		25年	7～12月	0.0	11.1	77.8	7.4	0.0	3.7	51.0
第21回		25年	1～6月	0.0	14.3	67.3	14.3	2.1	2.0	48.9
第20回		24年	7～12月	0.0	6.3	62.5	20.8	6.3	4.1	43.0
第19回		24年	1～6月	1.8	18.2	63.6	9.1	1.8	5.5	52.4
第18回		23年	7～12月	0.0	9.6	61.5	23.1	2.0	3.8	45.5
第17回		23年	1～6月	0.0	6.7	64.4	26.7	2.2	0.0	43.9
第16回		22年	7～12月	2.1	8.3	66.7	12.5	6.2	4.2	46.8
第15回		22年	1～6月	2.1	2.1	54.2	35.4	4.1	2.1	40.5
第14回		21年	7～12月	0.0	7.0	56.1	24.6	3.5	8.8	43.3
第13回		21年	1～6月	4.3	2.1	34.0	36.2	14.9	8.5	34.9
第12回		20年	7～12月	0.0	11.1	80.0	8.9	0.0	0.0	50.6
第11回		20年	1～6月	2.1	17.0	70.2	6.4	0.0	4.3	53.9
第10回		19年	7～12月	3.8	26.9	63.5	1.9	0.0	3.9	58.4
第9回		19年	1～6月	8.3	22.9	52.1	8.3	0.0	8.4	58.5
第8回		18年	7～12月	2.1	21.3	53.2	14.9	2.1	6.4	51.7
第7回		18年	1～6月	0.0	13.3	73.3	6.7	2.3	4.4	50.5
第6回		17年	7～12月	0.0	22.0	61.0	9.8	0.0	7.2	53.3
第5回		17年	1～6月	5.0	5.0	65.0	20.0	2.5	2.5	47.4
第4回		16年	7～12月	0.0	16.7	72.2	8.3	2.8	0.0	50.7

第3回	16年	1~6月	0.0	8.0	56.0	30.0	4.0	2.0	42.3
第2回	15年	7~12月	0.0	8.8	57.9	28.1	5.2	0.0	42.6

(注) 雇用見通しは第2回から実施

質問 11 資金繰りの状況(前半期との比較)

				改善した	やや改善	どちらともいえない	やや悪化	悪化した	無回答	DI
今回	令和	2年	7~12月	0.0	18.2	52.3	18.2	9.1	2.3	45.3
前回		2年	1~6月	8.7	8.7	26.1	39.1	13.0	4.3	39.8
前々回		元年	7~12月	2.0	3.9	74.5	11.8	3.9	3.9	47.0
第34回		元年	1~6月	6.5	8.7	69.6	13.0	0.0	2.2	52.2
第33回	平成	30年	7~12月	2.2	24.4	62.2	11.1	0.0	0.0	54.4
第32回		30年	1~6月	2.6	15.8	68.4	10.5	0.0	2.6	52.6
第31回		29年	7~12月	4.7	14.0	62.8	18.6	0.0	0.0	51.3
第30回		29年	1~6月	4.3	17.0	70.2	8.5	0.0	0.0	54.3
第29回		28年	7~12月	2.1	17.0	68.1	12.8	0.0	0.0	53.1
第28回		28年	1~6月	7.4	9.3	61.1	18.5	1.9	1.9	50.5
第27回		27年	7~12月	4.3	10.9	69.6	13.0	2.0	2.2	51.7
第26回		27年	1~6月	2.0	6.2	71.4	16.4	2.0	2.0	47.4
第25回		26年	7~12月	2.1	10.4	64.6	20.8	0.0	2.1	48.4
第24回		26年	1~6月	4.0	20.0	56.0	18.0	2.0	0.0	51.5
第23回		25年	7~12月	4.1	16.3	59.2	18.4	0.0	2.0	51.6
第22回		25年	1~6月	3.7	22.2	51.9	18.5	0.0	3.7	52.9
第21回		24年	7~12月	6.1	16.3	53.1	14.3	8.2	2.0	49.4
第20回		24年	1~6月	2.1	18.8	58.3	8.3	8.3	4.2	49.5
第19回		23年	7~12月	9.1	7.3	50.0	20.9	7.2	5.5	47.4
第18回		23年	1~6月	0.0	9.6	48.1	26.9	11.6	3.8	39.5
第17回		22年	7~12月	0.0	17.8	55.6	15.6	8.8	2.2	46.1
第16回		22年	1~6月	4.2	8.3	54.2	27.1	6.2	0.0	44.3
第15回		21年	7~12月	2.1	4.2	62.5	16.7	14.5	0.0	40.7
第14回		21年	1~6月	3.5	10.5	33.3	36.8	10.6	5.3	39.3
第13回		20年	7~12月	2.1	6.4	44.7	34.0	12.8	0.0	37.8
第12回		20年	1~6月	0.0	13.3	48.9	35.6	2.2	0.0	0.0
第11回		19年	7~12月	4.3	8.5	46.8	27.7	6.3	6.4	43.8
第10回		19年	1~6月	3.8	17.3	53.8	21.2	0.0	3.9	50.9
第9回		18年	7~12月	6.3	16.7	54.2	12.5	6.1	4.2	51.2
第8回		18年	1~6月	0.0	21.3	59.6	12.8	2.0	4.3	51.2

(注) 資金繰りの状況は第8回から実施